令和７年１１月１７日

小野市議会議長　平田　真実　様

民生地域常任委員会
委員長　喜始　真吾

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　視察実施日　　令和７年１１月５日（水）～令和７年１１月７日（金）

２　視察メンバー

安達哲郎　掘井ひさ代　宮脇健一　村本洋子
河島三奈　山本悟朗　　藤原　章　喜始真吾

３　視察先及び調査内容

（１）シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）
シェア金沢について

（２）有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
スマート農業について
最先端のスマート農業を導入したブロッコリー栽培の大規模経営において、労働時間の削減、収穫量の増加、収益の向上を目指している。

（３）**福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３－１）**
東京ドーム１．２個分という広大な敷地内に、屋内施設として、展示エリアや

プラネタリウム、プレイエリアなどがあり、屋外には遊具広場・ビオトープなど、子どもたちの喜ぶアイテムがぎっしり詰まっている。宇宙や科学に対する目を養い、遊びながら楽しく学べる巨大施設。

（４）福井県庁（福井県福井市大手３丁目１７−１）

ふく育県の子育て支援について

「みんなが安心して過ごせるように」「みんなの夢が輝く、幸せな未来」「子育てって楽しい！を分かち合おう」この三つの柱で取り組んでいる総合的な子育て支援政策である。

４　調査結果

【第１日】

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢について

≪視察内容≫

シェア金沢とは、高齢者、大学生、病気の人、障害のある人、分け隔てなく誰もが、共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街。かつてあった良き地域コミュニティを再生させる街である。

施設の入り口には、それとわかる看板はなく、小さな案内板が立っているのみで、周囲に塀や壁を設置することもなく、ご近所との境界線をつくらない設計である。

「施設と街を線引きせずに地域のグラデーションをつくることが、シェア金沢の目指すべき役割」と考えている。(施設長)

この考え方のとおり、男性・女性、若者・高齢者、学生・社会人、健常者・障がい者といった属性を取り除き、「人を分け隔てしない街づくり」を目指して活動を続けている。これがコンセプトである「ごちゃまぜ」となっている。

敷地面積は約３５，０００㎡、この中には定員３０名の障がい児入所施設や就労支援を行うワークセンター、サービス付き高齢者住宅、アトリエ付きの学生向けワンルーム賃貸のほか、就労の受け皿となっているレストラン、キッチンスタジオ、音楽イベントを開催できるライブハウス、そして地域の人たちも利用できる天然温泉やショップ、ドッグランなどもある。

開業から１１年、「シェア金沢」の存在は地域の人たちに様々な効果をもたらしている。視察に来た方々は、「ここにいる人たちは、地元の子か、障がいを持っている子か、地域の人か、デイサービスの人か、まったく区別がつかない。」という印象を持つ。実際、サービス付き高齢者向け住宅で暮らしている高齢者が、障がい児の面倒を見るようになり、自分の役割ができたことで、責任感が生まれ、徘徊がなくなったケースや、地元で問題児と呼ばれて親からも見放されてしまった子どもが、レストランの厨房で働くようになり、障がいを持つ子どもたちから慕われるようになって、将来は福祉の仕事に就きたいと新たな目標を見つけたケースもある。

こうしていろんな人たちと別け隔てなく関わるようになると、どんどん視野が広がり、社会というのは、家族や友達の範囲だけではないということに気づいて、みんながどんどん元気になっていく。

このような取組を受けてシェア金沢は、『グッドデザイン賞（地域・コミュニティづくり)』や『総務省ふるさとづくり大賞』など数多くの賞に輝き、国内外からの視察も多く受け入れている。

≪所　感≫

これまで視察に来られた方と同様に、地元の子か、障がいを持っている子か、地域の人か、デイサービスの人か、まったく区別がつかないほど自然なまちを形成している。

午後から訪問させていただいたが、放課後の時間帯には子どもたちが屋外で楽しく過ごしている姿を見て、私の町ではあまり見ることができない光景に映った。

食事もとらせていただいたが、厨房も生き生きとしていて明るい。

担当者の方が、支える側の活動も生きがいになっていると言われており、「小野市でも保育所にカフェ、資料館に居酒屋など人が集まる仕掛けから始めたらどうか」といった民間ならではの提案があり、今後人口減少が進む中、施設の統廃合を検討していくうえで参考としたい。

概要説明

天然温泉

【第２日】
《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
　スマート農業について

≪視察内容≫
・安井ファームは石川県内一の生産量を誇るブロッコリーをはじめ、水稲や大豆、キャベツ、白菜などの多彩な農作物を栽培する北陸最大規模の複合経営ファームである。

・作付け面積は１６２ha、このうちブロッコリーは９４ha、水稲４８ha、大豆１５ha、その他（１７品目）５ha。

　代表の安井善成氏自らのプレゼンテーションで、講義を受けた。
　「農業」は字のごとく、農を生業とする仕事ですが、その道は決して簡単ではありません。技術を身につけるのは一朝一夕にはいかず、作物、気候風土、規模によって、栽培方法はまったく異なります。生半可な気持ちでは飛び込めない業界です。一方で、「食」は生きていくうえで欠かせないものであり、その根幹を担う農業はとてもやりがいのある仕事だと感じています。だからこそ、安井ファームは誰にも負けない熱量で農業と向き合う若者を後押しします。
　ブロッコリーには１房に７万個もの蕾が付いています。蕾が開いてしまっては商品にはなりませんが、当ファームで働く社員には夢に向かってどれだけでも花を咲かせてほしいと思っている。と安井代表は述べた。
【年間３作体制】
・県内産ブロッコリーの約３０％を生産⇒３個に１個は当ファーム産。また、種まき時期や品種を変えながら春・秋・越冬の年３回の収穫を行い、１年のうち９か月はブロッコリーを出荷できる体制を整えている。
【越冬作】
　秋に播種・育苗・定植を行い、北陸の厳しい寒さの中ではぐくみ、３、４月に収穫する越冬作の栽培技術を独自に確立。
【持続可能な栽培】
　大手スーパーと連携し、店頭で出る野菜くずを堆肥化して栽培に利用するなど、環境にやさしい持続可能な栽培に注力。
【省力化】
　手で摘み取っていた収穫の機械化や、ドローンによる収穫期の画像診断など、効率的な農業に向けた研究を推進。これにより労働時間が約１７％削減、収量は約２５％増加し、目標の３５％の収益性向上が達成されている。
【法人化】
　法人化は約２０年前、２００８年には県内初のグローバル GAP を認証取得。
　スタッフはパートや技能実習生を含めると３０人以上、全員が非農家である。

≪所　感≫

代表の話しぶりには大変熱意を感じた。

平成２９年に約３億４千万円の投資をしたが、補助金は冷蔵庫のみとのことで、それから５年間は赤字で、それ以降は黒字になったとのこと。

現在は、原発被害のあった福島県双葉町の農地についても約３０ha を借りて耕作しており、水稲も３年前の倍以上作付けしているそうで、着実に成長しているところは素晴らしい。

しかし、課題はやはり後継者不足で、技能実習生がいないと成り立たないということなので、今後は人材の確保・育成に力を注いでいくことについての思いは、小野市と同じと感じた。

また、大区画でないとロボットトラクタ等の機械の効率が悪いので、小野市の農地でどこまで導入できるかも課題である。

概要説明（安井代表）

≪現地視察先≫

福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３−１）

愛称は「エンゼルランドふくい」

１．施設の概要

（１）所　在　地：福井県坂井市春江町東太郎丸３－１

（２）設 置 主 体：福井県

（３）指定管理者：ふくい福祉事業団・丹青社
福井県児童科学館運営事業体

（４）設 置 目 的：遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ることを目的として設置した。（児童福祉法に基づく児童厚生施設【大型児童館】）
⇒全国に１８か所

２．利用時間

（１）開 館 時 間：午前９時３０分～午後５時まで7/1～8/31は午後６時まで開館

（２）休　館　日：月曜日（休日を除く）
休日の翌日（土・日・休日を除く）
年末年始（１２/２８～１/４）※7/21～8/31は休まず開館

３．建物の概要

（１）規模

① 敷地面積：５４，９０６㎡

② 建物構造：本館　鉄筋コンクリート地上２階（一部３階）
別館　鉄筋コンクリート地上２階

③ 建築面積：５，７５２㎡

④ 駐 車 場：普通車３６０台・大型バス１０台（無料）

（２）総工事費：約１１０億円（土地取得を除くと約８８億円）

４．経緯

平成４年度　基本構想計画
平成５年度　基本計画策定
平成６年度　基本設計、地質調査、用地取得
平成７年度　実施設計
平成８～１０年度　建築、展示工事（工期：平成８年１０月～平成１１年３月）
平成１１年6月１日開館
平成２８年１０月２２日　展示エリアリニューアル
令和６年６月１日　開館２５周年
令和６年７月１３日　入館者１１００万人達成
令和７年５月２４日　開館２５周年記念式典
令和６年度に実施予定だったが、屋根改修工事のため、完成後に実施した。

５．名誉館長

宇宙飛行士　毛利　衛　氏（平成１１年６月就任、現在９期目）
毛利衛氏は、父親の正信さん（故人）が福井県坂井市春江町の出身であり、本件とゆかりが深く、また、当館内には宇宙・科学の展示ゾーンを設置していることから就任された。これまで来館・講演会を延べ１０回開催されている。

６．主な利用層とプログラム

平日：子育て講座、あそびの広場等
スペースシアター（学習投映）
クラフトルーム（工作教室）
コミュニケーション・ラボ（コミュラボ・ラーニング）
サイエンスショー
コンピュータルーム（コンピュータ教室）

土・日・祝、夏休み
自主企画イベント、各種連携イベント、企画展
スペースシアター・クラフトルーム・お店屋さん
コミュニケーション・ラボ・サイエンスショー等

ゴールデンウイーク、お盆
企画展、特別イベント
スペースシアター・クラフトルーム
サイエンスショー

≪所　感≫

様々な遊具の中に科学を取り入れ、あそびの中にも科学に関心を持ってもらえるような工夫がなされている。

来訪は平日だったが、放課後には多くの子どもたちが来館して利用しており、「遊びと学びと交流で子どもたちに新たな驚きと発見と成長を」というキャッチフレーズがピタリとハマっている。

また、宇宙飛行士の毛利衛氏が実際に宇宙で使用した日用品などは、普段私たちが見ることのできない貴重なものばかりなので、来館者にはプラスアルファのスパイスになっていると感じた。

小野市のチャイコムも、もっと子どもや子育て世代が楽しめて、次世代を担う若者が育っていく礎となるような環境を創出する施設になればと切に思う。

概要説明

宇宙飛行士の毛利衛さんの宇宙での生活用具を前に

【第３日】
《視察先》福井県こども未来課、ふく育推進グループ
≪視察項目≫
ふく育県の子育て支援について
≪視察内容≫
＜ふく育県の概要＞
令和４年２月　日本一幸福な子育て県「ふく育県」の推進を宣言
１．日本一の不妊治療支援
（自己負担額の上限６万円）
・妊娠出産時の経済支援
２．日本一の男性育休支援
３．日本一のふく育応援
第２子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無償化、県内大学等の授業料支援等
・中学生までの医療費無償化
・子育て世代の家事・育児、外出を支える「ふく育さん」「ふく育タクシー」
・県内店舗で割引等を受けられる「ふく育」パスポート
・雪や雨でも楽しめる「全天候型の遊び場」の整備

この３つの項目を掲げて「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援を実施している。
＜ふく育県ブランドの発信＞
① テレビ CM、SNS 広告等
・切れ目ない支援をわかり易く伝えるテレビ
・CM のほか、SNS 広告や駅でのデジタルサイネージ広告等で発信
② 子供・子育て応援イベント
・保護者同士の交流や、子育ての喜び、親子の絆を感じてもらう、こども・子育て応援イベント「ふく育祭」を開催
③ 新聞広告、ハンドブック
・本県の子育て環境の魅力を分かりやすくまとめた新聞やハンドブックを制作し、様々な機会をとらえて周知
【成果】
・テレビ CM など、県内外での継続的な PR を通じ、本県での前向きな子育て感の醸成や移住者増加に寄与
ふく育県の認知度向上　県外　６．３％⇒１０％（R6 キャンペーン後）
県内４６．０％⇒７０％（　　〃　　）
「子育て環境が良さそうな都道府県」（福井県）の回答率　６６％⇒８２％（　〃　）
UI ターン者の増加　６１４世帯、１，０１８人⇒７６５世帯、１，３６７人　※（R6）
※うち２０～３０代の子育て世帯が約半数超（７７５人）

＜これまでの取組の成果＞

① 女性の平均初婚年齢　２９．０歳（R2 全国１０位）⇒２８．９歳（R6 全国１位）

② 女性の年齢区分別出生数

	３０～３４歳	４０～４９歳
R5	１，５８４人	２４２人
R6	１，６０８人	２４９人
	＋２４人	＋７人

③ 民間企業男性育休取得率　３１．４％（R5）⇒４４．９％（R6）過去最高

経済的負担感

H20	H25	H30	R6
78.2%	74.5%	71.5%	63.5%

※政府目標⇒取得率８５％　☆県庁は１００％

④ 合計特殊出生率　１．４６（R6 全国２位）全国で唯一前年の出生率を維持

※第１子と第２子の合計特殊出生率は全国１位

＜不妊治療費助成事業＞

・医療保険適用となる治療、先進医療及びそれと併せて実施される治療について、基本的に自己負担額が６万円を超えないよう助成

実績：件数⇒特定不妊治療　R4　851　R5　1,296　R6　1,578

一般不妊治療　R4　115　R5　144　R6　154

※保険適用範囲が拡大した令和４年度以降増加傾向

＜ふく育応援プロジェクト（子を２人以上育てる世帯への経済的支援＞

・保育料の無償化⇒世帯年収６４０万円未満の第２子に加え、令和６年９月からは世帯年収６４０万円以上の第２子の保育料無償化の範囲を拡大

・ふくい在宅育児応援手当⇒第２子以降を在宅で育児する年収３６０万円未満の世帯に加え、年収３６０万円以上の世帯に対しても支給（R6.9～）

・一時預かり事業（保育所内）⇒主に未就園の児童を対象に就学前の第２子以降は無償

・すみずみ子育てサポート事業（民間等による一時預かり、ベビーシッター、家事支援等）⇒未就学または小学校３年生以下で、放課後児童クラブが利用できない児童を対象に就学前の第２子以降は無償

・病児保育事業⇒小学生以下の児童を対象に就学前の第２子以降は無償

＜こども医療費助成事業＞

・抵抗力が弱く、病気にかかりやすい子どもの医療費を助成

事業主体：市町（県が費用の１/２を補助）

対象年齢：中学３年生まで、所得制限なし

＜ふく育さんとふく育タクシー＞

・ふく育さん（ベビーシッター）の派遣

夜間・休日等を含め、ニーズの多い時間帯に子どもの預かり等を担う家事育児サポーター「ふく育さん」を派遣⇒県内１７市町利用可能、業者委託

・ふく育タクシーの運行

子どものみの送迎や妊婦の通院等をサポートするため、県の研修を受講した認定ドライバーによる「ふく育タクシー」を運行⇒２４事業所１００人のドライバーが登録

★令和７年度の新規施策

（１）「ふく育さん」の利用者負担を軽減（すみずみ子育てサポート事業のうち数）

（２）育児負担が大きな世帯に「ふく育サービス」の共通クーポンを配布（ふく育サービス利用支援事業）

☆「ふく育県」の子育て施策の評価（R5 県民アンケート）

・回答者の７割以上が、子育て施策を評価（若い世代ほど評価が高い）

☆今後強化すべき子育て支援策は何か（R5 県民アンケート）

・すべての年代で、仕事と子育てが両立しやすい労働環境整備を求める声が最も多い

・次いで経済的負担の軽減、家事育児のサポートと続いている

★「ふく育推進チーム」における新たな子育て支援策の検討

・「ふく育県」の子育て支援を更なる高みに引き上げるため、令和７年７月に副知事をトップとする部局連携のチームを設置

・４月１９日に第１回チーム会議を開催（検討開始）

・チーム設置後、子ども・子育て支援に取り組む９団体との意見交換を行いながら、庁内会議等で施策案を検討

≪所　感≫

２０２４年には全国で２番目の合計特殊出生率（１．４６）となっており、４７都道府県幸福度ランキングでは６回の日本一になった実績のとおり、全県を挙げて取り組んでおられる「ふく育県」の施策が着実に成果を出している。

統計を見ると、生涯未婚率で女性が全国１位（１２．１％）、男性が２位（２３．４％）で、共働き率が１位（６１．２％）、これは３世代世帯割合が２位（１１．５％）という位置と比例しているのではと推察する。

現在社会における最大の課題である人口減少問題に対して、こうした県の主導で様々な施策を実践され、大きな成果を出されていることについては素晴らしいの一語に尽きる。地域の特性等もあると思うが、小野市においても参考にしたい。

議会事務局会議室にて概要説明

福井県議会議場

令和　7 年　11 月 20 日

小野市議会議長　平田　真実　様

民生地域常任委員会
安達　哲郎

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1　視察実施日　　令和　7 年 11 月　5 日（水）～令和　7 年 11 月　7 日（金）

2　視察メンバー

喜始真吾　安達哲郎　掘井ひさ代　宮脇健一　村本洋子　河島三奈
山本悟朗　藤原章

3　視察先及び調査内容

（1）シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）
シェア金沢について

（2）有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
スマート農業について

（3）**福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３－１）**

（4）福井県庁（福井県福井市大手３丁目１７－１）
ふく育県の子育て支援について

４　調査結果

【第１日】

視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

　シェア金沢について

≪視察内容≫

ごちゃまぜ就労支援施設　　社会福祉法人沸子園

施設内容：

・障がい児関連施設

児童養護施設　定員３０人

放課後デイサービス　定員１０名

　支援する、支援されるという枠組みがない環境の中で生活している。

・障がい者関連施設

グループホーム　定員２７名

ワークセンター（就労 A 型、B 型）定員４０名

・高齢者関連施設

サービス付き高齢者住宅　32 戸

　月額　１４０,０００円

・一般者利用施設

学生向け賃貸住宅　6 戸

　1LDK　家賃３５,０００円　敷金不要　月３０時間のボランティア活動

・その他

ドッグランを併設。犬を飼うという選択肢もあるが、犬はご主人が多いとストレスの原因となるので、ドッグランに来た犬との触れ合いを大切にしている。

スタッフは１５０人いるが、ほとんどが半径３キロ以内の住民である。

福祉系の仕事は資格がいることが多いが、障がい者就労に関しては資格がいらないので、採用しやすい

健康とは

身体的　　精神的　　**社会的**　が合わさってできるものであるが、圧倒的に**社会的**が足りない

これからの施設は１か所に１つの機能を有しているだけではだめで、人が集まる場所に多機能集中をすることが大切。

知的障害を持つ方のコミュニケーション能力はある意味特殊能力、その能力が大いに力を発揮する場面が多々ある。ダウン症の人は９２％が幸せ、自己肯定感が強い傾向。

「三大幸福物質」
セロトニン　　心と体
ドーパミン　　成功体験
オキシトシン　　つながり
支える側としての活動が人生の中にないと、生き甲斐がなくなる。

≪所　感≫
　高齢者から障がい者、障がい児、学生、一般の方が一つの空間で生活している、いわゆるごちゃまぜ施設を見学させてもらいました。教育でも福祉でも、一方が一方を支える、指導する、世話をするというのが一般的ではあるが、この施設では、お互いがお互いを支援しあうという空間ができあがっている。印象的だったのは、人生の中で、支える側としての活動がないと、生きがいがなくなるということです。人は支え、支えられながら生きていますが、支えられているばかりではダメで、何でもいいので人を支えるというやりがい、生きがいを持つことがとても大切なのだと学びました。高齢者と子ども、学生、様々な世代の様々な価値観を持った人たちはともに生活する中で、お互いを思いやり、補完しあえる環境は、このシェア金沢でしかできないものなのだと感じました。
現状では福祉は福祉、障がい者支援は障がい者支援と分かれていて、そこには補助金等様々な課題がある故に障壁があるのでなかなか合体してやっていくことは現実難しいのかもしれませんが、このシェア金沢さんをいい成功例として、少しでも取り入れることができるのであれば取り入れていきたいと感じました。

【第２日】
《視察先》
　有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
　スマート農業について
≪視察内容≫

平成１３年設立。
スマート農業をテーマに掲げ、ロボットトラクタによる無人耕起作業や畝立て作業などを通して作業の効率化を図っている。

→結果、定植作業と収穫作業の効率化が進み、労働時間は１７％減、収穫量は２５％増加し、目標の 35％の収益性向上を達成した。

耕地面積　162ha
主な栽培品種
　・ブロッコリー　　94ha
　・水稲　　48ha
　・大豆　　15ha
連作障害を避けるため、ローテーションしながら栽培をしている。
　水稲　→　収穫　→　１０月にブロッコリー　→　３月収穫　→　６月大豆
　水稲　→　収穫　→　１１月に　麦　　→６月収穫　→　８月ブロッコリー

雨が多いため野菜類の生産には不向きであるが、害虫被害が少ない長所を利用し、着実に収穫量を上げている。

従業員　社員１０名　　パート１４名　　技能実習生１１名
　社員は若い人が多くそれぞれの個性を生かし、仕事に励んでいる。
　社員にやりたいことを聞き、実際にやらせてみる。これが労働意欲を掻き立て、会社の発展に寄与している。
（例）直営のブロッコリー販売所を作り、業者を通さず販売し、大盛況。
　　新入社員が提案した干し芋が大成功。
SNS も巧みに利用し、ブロッコリーに特化した料理本も販売している。

自社で大きな冷蔵施設を保有しているので、出荷コントロールが可能になる。それにより、安定した供給体制が構築され、安定した取引が可能になり、事業拡大につながっている。

≪所　感≫

少子高齢化の影響もあり、若者の就業者も少なく、農業者の平均年齢は６９歳といわれている中、この安井ファームさんは、ほとんどが 30 代の若い従業員で構成されています。その要因としてはやはりやりがいがあること、儲かること、この二つだと思っています。社員にやりたいことを聞き、実際にやらせてみる。それにより責任感も増し、より積極的に仕事に取り組むようになる。成果が出るとまた次のチャレンジをしようという気概になる。このような好循環をもたらしている安井ファームさんに関心しました。スマート農業への取り組みも先進的で、今まで人がやっていた重労働も、機械がやってくれることにより、時間効率もよくなり、生産性があがることを実証されています。ただ、あくまでこれは会社として大規模農業ができているという側面がありますので、小さな単位である農家の方が同じようにするには、コスト面で非常にハードルが高いのかなと感じました。農業用機械はその特殊性もあり、一台の機械が数百万円、数千万円するものもあるので、そこのコストと売り上げの両面を天秤にかけると、なかなか難しいのかなと感じました。産地化をすると、その地域の特産品として売り出すことができるので、そのやり方は小野市においても参考にできるのではないかと感じました。

【第２日・午後】

≪現地視察先≫

エンゼルランドふくい（福井県立児童科学館）

設置目的

・遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ることを目的とした児童厚生施設

平成１１年　開館

名誉館長：　毛利衛（宇宙飛行士）　　父が坂井市出身という縁もあり就任

（視察先提供資料より引用）

コミュラボ・ラーニング
・小学校の「生活科、理科、総合など」の授業で学習する内容について、体験的な活動を通してさらに「学びを広げる・深める」学習対応プログラムを展開。
・現在 13 のプログラムがあり、100 を超える観察や実験を用意している。

（視察先提供資料より引用）

屋外にはトランポリンや大型遊具もあり、放課後には近くの小学校の児童が遊び場として利用している。

主なイベント
・夏の企画展（シルバニアファミリー展）
・青少年のための科学の祭典
・児童館フェスタ
・その他季節や行事に応じたイベントを開催している。

新たな取り組み
・SNS による積極的な発信
・キャラクターによる広報の強化
・こどもの声を聞く取り組みの強化
・遊び場の充実
・ボランティアの活動拡大
・「みんなのたのしいおみせやさんきらきらエンゼルショップ」の新設・・・など
来客数の推移
平成１１年　　320,092 人
年々右肩上がりを続け、ピークは平成２８年で来客数は 630,753 人
直近の令和 6 年は 324,966 人で推移している。

≪所　感≫

　県立の児童科学館を見学して、まず感心したのは設備の充実です。大人の私でも興味をくすぐられるものが沢山ありました。てこの原理を利用したものや、映像を駆使したゲーム感覚でできるものなど、とても魅力的なものが勢ぞろいで、子どもから大人まで1 日楽しめる空間でした。社会科見学はもちろん、県内各地から来場者があり、活気に溢れていると感じました。ほとんどのスペースが入場料無料なので、ちょっとした休憩の場としても利用できるので、とてもいいなと思いました。放課後になると近所の小学生が集まってきて外で楽しく遊ぶ姿を見ることができ、ああ、これが福井県の子どもがのびのびと育っている要因なのだと感じることができました。こどもたちからの発案によりできた「みんなのたのしいおみせやさんきらきらエンゼルショップ」では、実際のスーパーマーケットを再現し、今日の献立を考えながら、どんな食材がいるかを考え、いくらで買えるのかを遊び感覚で学習でき、体験を通して沢山の経験ができるとても素晴らしいものでした。児童科学館はとても大きくて、県の事業でもあるので、小野市にもというわけにはいきませんが、ソフト面では、小野市にも取り入れることができるのではないかと思いました。

【第３日】

《視察先》

福井県こども未来課、ふく育推進グループ

≪視察項目≫

ふく育県の子育て支援について

≪視察内容≫

　日本一幸福な子育て県「ふく育県」

充実した子育て支援

・日本一の不妊治療支援（自己負担額の上限 6 万円）

　保険適用となる治療などについて、基本的に自己負担額が 6 万円を超えないよう助成 1,500 件の申請。　助成による出産は 200 人を突破。

・日本一の男性育休支援

　県内の男性育休取得を加速させるため、令和 5 年 7 月、1 社あたり最大 600 万円の奨励金制度を創設。令和 6 年は、支給要件を大幅緩和

　＜支援例＞

育休スタート奨励金：男性従業員が初めて連続 5 日以上の育児休業を取得した場合、定額 30 万円

結果：福井県における男性の育児休業取得率は 44. 9％（前年比+13. 5%）

・日本一のふく育応援

第 2 子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無償化

令和 6 年 9 月より、第 2 子の保育料無償化と、第 2 子以降の在宅育児応援手当の所得制限の撤廃（従来は年収 360 万円以下の世帯が対象だったが、撤廃）

・中学生までの医療費無償化

すみずみ子育てサポート事業

（就職活動、疾病、事故、冠婚葬祭、学校行事への参加など、一時的に子育てに対する支援が必要になる場合の子育て世帯を支援するため、民間の子育て支援サービスを利用する際の利用料金の一部を県・市が補助）

・子育て世帯の家事・育児、外出を支える「ふく育さん」、「ふく育タクシー」

ベビーシッターの派遣や、子どものみの送迎や妊婦の通院等をサポートするため、県の研修を受講した認定ドライバーによる「ふく育タクシー」を運行

・県内店舗で割引等を受けられる「ふく育」パスポート

子育て世帯等を応援する店舗を「ふく育」応援団として登録

応援団の子育て支援の取り組みには、「割引・優待」以外のメニューも追加し、応援団の登録企業が、それぞれ自身の可能な範囲で子育て世帯を応援

現在 6.6 万人が登録。ふく育応援団登録店舗数 2,000 店舗

・雪や雨でも楽しめる全天候型の遊び場整備

天候にかかわらず子どもたちが安心して遊ぶことができる遊び場を充実し、心身ともに健やかな子どもの育ちを支援するため、全天候型の子どもの遊び場整備（新設または改修、拡充）に要する市町事業の費用を上限 1 億円で補助

1 市町に 1 つの遊び場を設置することを目的としている。

※県内 17 市町において県事業を活用した全天候型の遊び場整備を計画・実行中

（完成 4.　設計・整備中 11.　検討中 2）

県民の反応

県民アンケートを実施

① あなたから見て、福井県が実施する「ふく育県」としての子育て施策を評価できますか？

回答　：　評価・どちらかといえば評価できる　　72.8%

≪所　感≫

福井県の子育て支援について勉強させていただき、とても素晴らしいと感じました。特に、各市町に全天候型の遊び場を作るために、上限１億円の補助金を出すという思い切った政策が目を引きました。実際、坂井市にあるエンゼルランドにお邪魔しましたが、とても素晴らしい環境であり、子どもたちがすくすくと健やかに成長できる理由がわかりました。家族で楽しめる場所でもあるので、親子、三世代含めて有効に利用できる施設だなと感じました。また、各市町に委ねられていることの多い、子どもの医療費無料制度ですが、福井県では中学生までの医療費無料を県費で行っていることに驚きました。県が中学生までの医療費を補助してくれると、市としてはその財源を他で利用したり、更なる充実を図ることができるので、とてもいいなと思いました。その他、不妊治療を積極的にすることで、効果として助成により２００人の新しい命が生まれたことも大きな成果なのだと感じました。市と県では単位が違うので、比較することは難しいですが、こうして県と市が連携しあい子育て支援を厚くしているというのは、兵庫県として見習わないといけないと感じました。

令和７年１１月１０日

小野市議会議長　平田　真実　様

民生地域常任委員会

掘井　ひさ代

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記の通り報告いたします。

記

１．視察実施日

令和７年 11 月 5 日（水）～令和７年 11 月 7 日（金）

２．　視察メンバー

喜始　真吾・藤原　章・山本　悟朗・河島　三奈・村本　洋子・安達　哲郎

掘井　ひさ代・宮脇　健一

３．　視察先及び視察内容

（１）シェア金沢について

（２）有限会社安井ファーム　　スマート農業について

（３）福井県児童科学館

（４）福井県庁　ふく育県の子育て支援について

４．　調査結果

【第１日】

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢について

≪視察内容≫

シェア金沢の概要

2014 年 3 月、高齢者も若者も子どもも障害のあるなしにかかわらず暮らせる街―「シェア金沢　ごちゃまぜ」は石川県金沢市郊外にオープン。運営するのは同県白山市に本部を置く社会福祉法人佛子園（ぶっしえん）。

約 1 万 1,000 坪の敷地の中に、児童入所施設、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅を配置。さらに、学童保育、共同売店、天然温泉、レストラン、ライブハウス付きカフェバー、キッチンスタジオ、農園、アルパカ牧場、全天候型（屋根付き）グラウンド、ドッグラン、訪問介護・高齢者デイサービスなど。施設外からも地域の人たちが集う街になっている。

（視察先提供資料より引用）

福祉サービス

＊　障がい児入所施設　（障害特性、生活年齢、地域生活に向けた準備の必要性などに応じて、居室空間が４つのユニットに分かれている）　⇒　定員３０人

＊　障がい者グループホーム

＊　放課後等デイサービス　⇒　定員 10 名

＊　ワークセンター　　就労継続支援事業 A 型　⇒　１６名

　　就労継続支援事業 B 型　⇒　２４名

サービス付き高齢者向け住宅　⇒　32 戸

＊ 家賃　一人…120,000 円　　夫婦…140,000 円

学生向け住宅　　⇒　6 戸

＊　家賃半額　月に３０時間ボランティア活動

温泉施設　⇒　地域の人との交流の場

蕎麦処「ＹＡＢＵ丹　⇒　ブータン蕎麦を使用し毎日、自家製粉・製麺している。障がい者の働き場所となっている。

その他施設

＊スポーツジム　⇒　年齢・身体能で制限しない

＊農園　　⇒　さつまいも　⇒シャトレーゼ（３億円で買い取り）

＊若松共同売店　⇒　施設内の高齢者が中心となって経営

＊加藤キッチンスタジオ　⇒　料理教室を通じた出会いの場、語らいの場

＊ライブハウス　⇒　開放的なオープンデッキ。お酒や料理も楽しめる。

＊ドッグラン　⇒　シェア金沢では犬を飼えないので町の人が連れてくるのをさわる

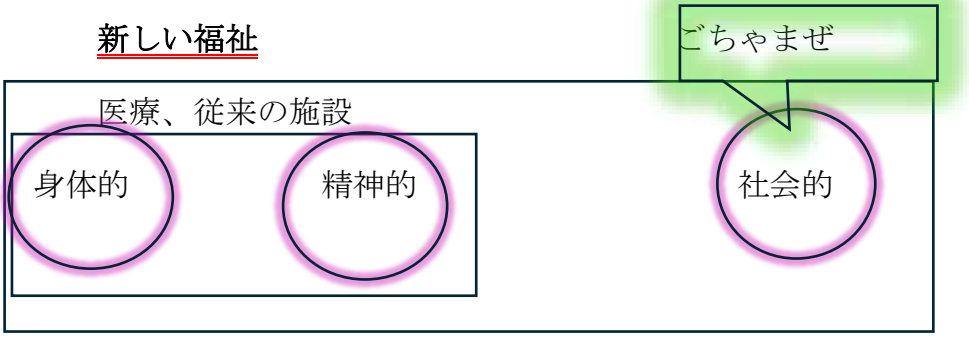
＊アルパカ牧場　⇒　草刈りが大変なためアルパカに草を食べてもらう。

シェア金沢の取組

健康の定義　「健康とは、身体的にも、精神的にも、社会的にも満たされている状態。

病気でないとか、弱っているという様な事ではない。」

新しい福祉



＊　「縦型福祉」から脱して、障がい者だけではなく健常者も、また若者も高

齢者も分け隔てなく一緒に暮らせる街を創る

＊　現在の福祉⇒資格制度になっており人材不足　⇒施設内では障がい者・高齢者が働き手

【所感】

シェア金沢は単なる福祉施設ではなく、「暮らし」「働き」「交流」が一体となった新しい地域共生モデルとして注目されている。という事で視察に行きました。

健康の三要素は、身体的・精神的・社会的に健康であることが重要であるが、従来の福祉施設は、社会的健康が損なわれており、身体的・精神的・社会的健康の三要素をとりいれた施設にしたい。また、現在は「人が関わらないのがリスク」であり、昔ながらの「顔の見える関係性」や「助け合いの文化」を現代に再構築することを目指してシェア金沢「ごちゃまぜ」が設立された。

講師の速水さんの話の中から、障がい者や高齢者、学生も働き手であり、住民が健康で安全に暮らしながら、社会的・文化的・経済的活動に積極的に参加できる仕組みが整っていると感じました。特に、地域内にある共同売店も高齢者が中心となって経営し、仕入れから販売までを担っておられるのは生きがいになっており、まさしく社会的健康そのものです。また、「ごちゃまぜのいい雰囲気をつくってくれるのが、障害のある方だったりします。彼らの″つなぎ力″はすごいです。特殊能力です。」「ワクワクすると人が集まる。」との話は心に響きました。一人一人の特性に基づいた仕事も有り、地域の働き手となると思います。

小野市ではこのような施設をつくることは難しいと思いますが、医療・福祉介護分野は常に人手不足状態であり、この分野で「元気な高齢者」が「介護や福祉を必要とする高齢者」を支える仕組みを構築していくことも必要ではないかと思いました。また、顔の見える、助け合いが出来る、地域に合った地域コミュニティの場の構築も必要であると考えます。

【第２日】

《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）

≪視察項目≫

スマート農業について

≪視察内容≫

有限会社　安井ファーム　沿革

2001 年（平成 13 年）	個人経営から有限会社安井ファーム設立（代表：安井滋）
2002 年（平成 14 年）	選果場建設
2003 年（平成 15 年）	ブロッコリー作付け開始（20a）
2004 年（平成 16 年）	安井滋に替わり、安井善成が代表取締役に就任 ブロッコリーの作付け面積を拡大（2ha）
2005 年（平成 17 年）	ブロッコリーの作付面積を拡大(5ha)
2006 年（平成 18 年）	ブロッコリーの作付面積を拡大(10ha)
2007 年（平成 19 年）	ブロッコリーの作付面積を拡大(20ha)
2008 年（平成 20 年）	ブロッコリーの作付面積を拡大（40ha)期間借地を開始 県内初のグローバルＧＡＰ認証を取得
2016 年（平成 28 年）	ライスセンター、事務所棟、冷蔵庫棟を新設
2017 年（平成 29 年）	ブロッコリー大規模集出荷施設の運用を開始
2019 年（令和元年）	グローバルＧＡＰ認証を再取得
2024 年（令和 6 年）	ブロッコリーの策付面積（９４ha）

従業員　　：　正社員 10 名　／　パート　14 名　／　外国人実習生　11 名

経営概要　：　ブロッコリー　９４ha　／　水稲　４８ha　／　大豆　１５ha　／　その他　５ha

水稲・大豆　＋　ブロッコリー　⇒　水田フル活用に取組む

収益力向上　＋　北陸最大規模の水田統合

＊雨が多く野菜作りには適さない土地柄であるが、虫が少なくブロッコリーの生産には適している。

＊連作障害を避けるため、水稲・大豆等と圃場をローテンションさせている。２年で３作。

＊ブロッコリーの産地化を目指す（５０ha～１００ha）

業務　　：　穀物部　　野菜部　　選果・営業部

スマート農業　（ＡＩ）

①ロボットトラクタ、②オートトラクタ(二畦整形ロータリー)、③全自動移植機、 ④葉色解析サービス「いろは」(ドローンを活用した収穫適期診断システム)、⑤全自動収穫機

① ロボットトラクタ（無人）　⇒　作業時間　７５％削減　一人で２台操作出来る

② オートトラクタ　　⇒　作業時間　６４％削減

③ 全自動移植機　　⇒　作業時間　４５％削減

④ 葉色解析サービス「いろは」　　⇒　　ブロッコリーの大きさ（１２㎝）写真で解析 Ｉが判断して収穫

⑤ 全自動収穫期　　⇒　　手作業の方が早い　・体の負担軽減

＊ロボットと手作業により作業時間１２％削減　収穫は２７％増加

大規模化

＊　大型冷蔵施設と大型製氷機を所有し、鮮度を保ち長期保存することが出来る。

＊　出荷量の調整が可能なため、欠品・余剰のリスク回避出来る。

＊　ＪＡ等を通さず、百貨店、スーパーと直接取引でき、価格安定・取引数量安定した事業ができる。

人材育成　⇒　やりたいことが出来る環境づくりに力を入れている

自分提案　⇒　責任をもつ　⇒　良し悪しの結果　⇒　改善・改良

① 2018 年　新入社員・非農家　⇒　干し芋の商品化　「ともちゃん干し芋」

② 2019 年　農産物直売所「花蕾屋」　⇒　ブロッコリー専用の販売

＊鮮度・良心的価格　＊対面販売で地域交流

＊地域のイベントに参加　⇒　新しい野菜・珍しい野菜に挑戦　⇒　食べ方説明

③　2017 年　広報課設立　⇒　東京農大を卒業し、北海道へ、その後「安井ファーム」に。29 歳で癌を患い、その後、農作業は出来ないが好きな農業に関わりたいと設立。

「農業は無限の可能性にあふれた世界」

＊知名度アップ　⇒　SNS の X で発信　・　メディア９７回出演（ブロッコリーの食べ方発信）

＊ブロッコリーレシピ本発行

「日本一バズる農家の健康ブロッコリーレシピ」

SDGs 宣言　　⇒　社会に認められる！　企業のイメージを変える！

【所感】

今回、スマート農業についての視察に赴いたが、スマート農業を取り入れるには、水田の大きさが５反～1 丁でないと効率化に繋がらない。白山市ではまだ担い手が多く、平均年齢が 70 歳代のため 10 年後を見据えると離農者の増加により水田の拡張も見込まれる。しかし、小野市で取組むには難しいと考えます。人材育成については、若手・中堅社員を部門責任者に据え、やりたいことが出来る環境づくりに取組み、「挑戦」をキーワードに、社員の興味や得意分野を活かし、社員の発案による直売所「花蕾屋」や干し芋製造、レシピ本出版などを実現されている所は大いに参考になりました。

【11月6日（木） 視察】

福井県児童科学館 （愛称： エンゼルランドふくい）

『 遊びと学びと交流でこどもたちの新たな驚きと発見と成長を 』

（設置目的） 遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ることを目的として設置（大型児童館）

「みんなのたのしいおみせやさん きらきらエンゼルショップ」

広大な敷地内には、屋内施設に展示エリアやプラネタリウム、プレイエリアなどがあり、屋外には遊具広場・ビオトープなど、子供たちの喜ぶアイテムがぎっしり詰まっている。宇宙や科学に対する目を養い、遊びながら楽しく学べる巨大施設で、宇宙飛行士の毛利衛氏が名誉館長を務めていることでも有名。子どもから大人までが楽しめる。

【所感】

「福井県児童科学館」に視察で訪れた感想は、「とにかく広い（５４，９０６㎡）けど人が少ない。」でしたが、視察が終わったころには、沢山の親子が遊具で遊んだりボール遊びをされていました。館の方に聞いたところ「近くに小学校があり、帰りに寄ってくる子が多いです」と言われ納得しました。駅からも近く、街なかにこのような大きな施設がある事に驚きました。遊びの中（サイエンスショー）から科学に触れたり、宇宙飛行士の毛利衛さんが名誉館長ということで「月面宇宙基地」では、スペースシップやムーンウォークが体験できたりと、子どもから大人まで楽しめる施設で羨ましく思いました。運用について話を聞いたところ、高校生から大人まで約８０人のボランティアが関わっておられると聞きました。また、子どもたちにアンケートを実施し子どもの意見を反映した遊び等を導入されていることも、子どもの主体性を育むいい機会になると思いました。

福井県は雪が多いので全天候性施設が充実しているとお聞きしました。最近は酷暑により外で遊ぶことが困難となってきており、小野市でも子どもから大人までが利用できる全天候性施設があれば良いと思いました。

【第３日】

福井県庁 康福祉部こども未来課、ふく育推進グループ

≪視察項目≫

ふく育県の子育て支援について

≪視察内容≫

（１）「ふく育県」の概要

・これまでの取組み、成果

＊日本一の不妊治療支援（自己負担額の上限６万円）

＊日本一の男性育休支援（福井県庁１００％取得）

＊第２子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無償化

手厚い子育て支援により合計特殊出生率の高水準を維持する等、出産・子育ての環境整備に一定の成果・・・合計特殊出征率　Ｒ６　1.46（全国２位）

（２）主要施策

不妊治療費助成事業　：　保健適用となる治療等について、基本的に自己負担が６万円を超えないように助成

男性育休促進企業奨励金事業　：　令和５年７月より１社あたり最大６００万円の奨励金制度を創設

令和６年４月より

＊男性従業員が連続５日以上の育児休業を初めて取得した企業に 30 万円支給

＊男性従業員が通算１５日以上の育児休業を取得するごとに、１０万円を支給

福井県における男性育児休業の取得状況（Ｒ６）
育児休業取得率　４４．９％　過去最高・前年比＋13.5％

ふく育応援プロジェクト（子を２人以上育てる世帯への経済的支援）

：２子目以降の子および多胎児の保育料や、一時預かり・病児保育等の利用料を無償化

：令和６年９月より、第２子の保育料無償化と、第２子以降の在宅育児応援手当の所得制限を撤廃

こども医療費助成事業

：高校３年生まで県・市町の独自助成により無料（1 町以外）

すみずみ子育てサポート事業

：民間の子育て支援サービス（託児所での一時預かり、家事支援、ベビーシッター等）を利用する際の利用料金の一部を県・市町が補助

「ふく育さん」「ふく育タクシー」

：夜間・休日等を含めふく育さん（ベビーシッターを派遣）

：子どものみの送迎や妊婦の通院等をサポートするため「ふく育タクシー」を運行

ふく育サービス：「ふく育さん」の利用者負担を軽減　⇒　利用者は1時間500円からの利用負担で利用可能

：育児負担が大きな世帯に「ふく育サービス」の共通クーポンを配布　⇒新生児世帯（1,000円分）　ひとり親世帯、多胎児や医療ケア児等を育てる世帯（48,000円）

こどもの遊び場整備事業：天候にかかわらず子どもたちが安心して遊ぶことができる遊び場を充実し、心身ともに健やかな子どもの育ちを支援するため（補助基準額1億円）

〈実績〉　小浜市・・・キッズプレイパーク「なないろ」

大野市・・・おおの天空パーク「OSORA」

福井市・・・福井市中央公園「しろっぱ」

若狭町・・・あそまなびの森「あそまな」

（完成　４、　設計・整備中　１１、　検討中　２）

【所感】

福井県の「ふく育県」プロジェクトは、子育て支援の充実を図る先進的な取り組みであり、令和５年の県民アンケートでは、アンケート回答者の７割以上が、福井県の子育て施策を評価されており、共働き世帯・女性就業率は高水準で有ることからも評価が見て取れます。また、福井県の三世代世帯・近居率の高いことも要因の一つと考えます。

県の施策であり市町により財政面や重要施策面等に差異があるが、県が積極的に子育て支援を実施することにより、各市町・住民・企業がそれぞれの立場から役割を担い連携していくことの推進に繋っていると感じました。

小野市においても、高校まで完全医療費無料、ファミサポ事業等の支援を実施されていますが、今後も、国、県の助成事業を活用し、様々な家庭環境の子育て当事者に寄り添った支援策を行政・議員と共に進めていくことが必要と考えます。

令和７年１１月２０日

小野市議会議長 平田真実 様

民生地域常任委員会
宮脇健一

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　視察実施日　　令和７年１１月５日（水）～令和７年１１月７日（金）

２　視察メンバー

喜始真吾（委員長）、安達哲郎（副委員長）、掘井ひさ代、宮脇健一、村本洋子
河島三奈、山本悟朗、藤原章

３　視察先及び調査内容

（１）**シェア金沢について**

・施設全体の運営方針、理念
・居住形態
・地域交流施設の活用状況
・自主参加型のコミュティ運営

（２）有限会社安井ファーム

スマート農業について

・スマート農業導入の背景、目的
・自動化農機の活用状況
・ドローン、AI を活用した収穫作業の効率化
・作業効率、労働時間、収益性の変化
・スマート農業の運用体制

（３）福井県児童科学館について

・施設の基本概要
・展示、プログラムの特徴
・子育て支援機能
・教育機関との連携

（４）福井県庁

ふく育県の子育て支援について

・施策全体の理念と目的
・家計支援の詳細
・子育てサポート
・仕事と子育ての両立支援

４　調査結果

【第１日】

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢について

≪視察内容≫

１．理念・コンセプト

・高齢者、大学生、病気の人、障害のある人、分け隔てなく誰もが共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街。

・かつてあった良き地域コミュニティを再生させる街。

・いろんな人とのつながりを大切にしながら、主体性をもって地域社会づくりに参加する。

（視察先提供資料より引用）

２．街ナビ

住人同士の交流はもちろん、地域の住民たちが楽しく集える街。天然温泉、レストラン、ライブハウスなどのアミューズメント施設、人と人との交流を楽しむ施設や機能がある。

（視察先提供資料より引用）

3．多様な属性の共住・参加型運営

学生向け住宅には「月 30 時間のボランティア活動」が入居条件。入居者が街づくりに主体的に関わる仕組みがある。

4．地域住民との交流

・温泉・カフェ・売店・スポーツ施設などを地域に開放し、入居者と地域住民が自然に交わる仕組み。

・天然温泉は地域の日常利用が可能で、カフェやライブハウスでは幅広い世代が集まり、イベントや音楽を通した交流が生まれている。

・若松共同売店では高齢者や学生、障害のある人が共に働き、地域の子どもたちの「憩いの場」としても機能している。

・スポーツ施設や自然体験プログラムも、子どもから大人までが参加できるよう開かれており、地域住民が気軽に街の活動に関わることができる構造となっている。

≪所　感≫

シェア金沢は、単なる住宅開発に留まらず、多世代・多属性が混在し「支え合い・共に暮らす」ことを前提に据えた街づくりを進めており、入居者・地域住民双方に気づきを与えるモデルである。特に、学生のボランティア活動を入居条件とするなど、住民自身が街づくりに参画するルールが明文化されている点が印象的だった。また、天然温泉・レストラン・ライブハウスといった多様な施設を地域に開くことで、「住む場」ではなく「集い・暮らし・交流する場」として機能しており、小野市においても単なる居住施設ではなく「地域交流を誘発する拠点」として学び得る点が多いと感じた。

【第２日①】
《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
スマート農業について

≪視察内容≫
１．会社の沿革
平成 13 年　個人経営から有限会社安井ファーム設立
平成 14 年　選果場建設
平成 15 年　ブロッコリー作付け開始（20a）
平成 16 年　安井滋氏にかわり安井善成が代表取締役に就任
平成 16 年　ブロッコリーの作付面積を拡大（2ha）
平成 17 年　ブロッコリーの作付面積を拡大（5ha）
平成 18 年　イオン㈱様を中心に販売を開始
平成 18 年　ブロッコリーの作付面積を拡大（10ha）
平成 19 年　ブロッコリーの作付面積を拡大（20ha）
平成 20 年　県内初の GLOBALGAP 取得
平成 21 年　ブロッコリーの作付面積を拡大（40ha）
平成 21 年　関西方面から関東方面へと販路を拡大
平成 24 年　河北潟へキャベツ作付参入
平成 28 年　ライスセンター、事務所棟、冷蔵庫棟新設
平成 29 年　ブロッコリー集出荷施設新設
平成 30 年　いしかわ GAP 認証取得（ブロッコリー）
令和元年　直売所「花蕾屋」オープン

２．ブロッコリー生産の規模と特徴
・安井ファームのブロッコリー栽培面積は約 70 ヘクタール（2021 年 2 月時点）。
・石川県内産の約 3 割を安井ファームが生産している。
・石川県産ブロッコリーの「3 個に 1 個」が同社によるもの。

３．栽培体系（年間 3 作体制）
・春・秋・越冬の「年間 3 作体制」。
・苗を移植しながら計画的に作型を組むことで、1 年のうち 9 か月間はブロッコリーを出荷できる体制。
・越冬作では、秋に種を播き、定植を行い、北陸の厳しい気象条件を活かした高品質栽培を実現。

４．スマート農業の取り組み

・ロボットトラクタやオートトラクタを導入し、耕起・播種・施肥などを自動化。

・ドローン空撮と AI により収穫適期を診断し、収穫判断の精度を向上。

・作業時間の削減（約 17%減）、収量増加（約 25%増）、収益性向上（約 35%増）を実現。

・加工用出荷体系では全自動収穫機を活用。

５．持続可能な農業への取り組み

・「大手スーパーと連携し、安定した収量で継続的に供給できる栽培体系」を構築。

・適期収穫の徹底により品質を高め、ロスの少ない生産を実現。
いしかわ GAP、GLOBALGAP 認証を取得し、持続可能性の高い経営を継続。

６．複合経営

ブロッコリーのほか、水稲や大豆、キャベツ、白菜など多彩な作物を生産。
「北陸最大規模の複合経営ファーム」と紹介されている。

≪所　感≫

ブロッコリーの作付面積の拡大にとどまらず､GLOBALGAP･いしかわ GAP の取得、販売先の全国展開、キャベツや米などへの作物拡大、直売所の開設など、経営の幅を広げながら成長しているのを感じられた。また、ロボットトラクタやドローン空撮、AI による収穫適期診断、全自動収穫機の導入など、スマート農業技術を積極的に取り入れており、作業時間の削減、収量・収益性の向上といった効果が実証されている。厳しい気象条件を逆手に取った越冬栽培など、地域特性を活かした取り組みも見られ、生産性向上と安定供給を両立している点が参考になった。

さらに、単一作物に依存せず、米・大豆・キャベツ・白菜などの複数作物の生産を進めることで､経営のリスク分散を図っている点も特徴である｡若いスタッフが多く働き、挑戦を続ける企業文化が紹介されており、スマート農業を支える人材育成の重要性も感じられた。

【第２日②】
≪現地視察先≫
福井県児童科学館

≪視察内容≫
１．施設の基本情報
所在地：福井県坂井市春江町東太郎丸 3-1
設置者：福井県
管理運営：福井県児童科学館指定管理者（教育施設＋大型児童館の複合施設）
設置目的：「遊びと学びを通じて児童の健全育成を図る」「科学に親しみ、深めること」を目的とする児童厚生施設
利用時間 9:30～17:00（7/1～8/31 は 18:00 まで）
休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/28～1/4）7/21～8/31 は無休

２．建物の概要
敷地面積：54,906 ㎡
建築構造：本館 鉄筋コンクリート地上 2 階（一部 3 階）
別館 鉄筋コンクリート地上 2 階
延床面積：7,075 ㎡
駐車場：360 台・大型バス 10 台（無料）
総工事費：約 110 億円（土地取得費除き約 88 億円）

（視察先提供資料より引用）

（視察先提供資料より引用）

３．主な屋外施設

（１）屋外遊具

ちびっこ広場（大型ふわふわ遊具など）

こどもの城

和のテラス

（２）屋外活用プログラム

ストリートアーティスト体験

星空観察会

子ども向けスポーツイベント（バルーン、ターゲットスポーツ等）

どんぐりひろいなど季節行事

カイリュー自販機の設置（ふくい応援ポケモン関連）

４．館内の構成（エリア紹介）

・１階

スペースシアター（直径 23m／定員 200 名／観覧料：大人 520 円・高校生以下無料）

サイエンスショーエリア

宇宙飛行士毛利衛展示「MOHRI LAB」

風の力・空気の力など体験展示

チャレンジエリア（運動・遊具系）

・２階

コミュニケーション・ラボ（実験・学習室）

クラフトルーム（工作室）

コンピュータルーム

コミュニティルーム（団体利用可能）
展示室（科学学習テーマ展示）

５．主な来館者層と利用状況
（１）主な利用者
未就園児と保護者
幼稚園・保育園の団体
小学校（遠足・校外学習）
近隣の小中学生
家族連れ、県外からの観光客

（２）利用ピーク
平日午前：未就園児・幼稚園の利用
平日午後：近隣小中学生・団体
土日祝・夏休み：家族連れ、県外観光客、帰省客
GW・お盆：年間でも特に混雑

６．展示テーマ（学習内容）
低学年：うごくおもちゃ・ふしぎふしぎ
中学年：音のふしぎ、じゃく力（くっつく力）、空気の力、ものがとけるとは
高学年：電流がつみ出す力、大地のつくりとはたらき
総合：生き物のヒミツ・ものづくり

≪所　感≫
福井県児童科学館では、遊びと科学教育を結びつけた展示構成や、子どもの発達段階に応じた体験プログラムが整備されており、子ども主体の学びを促す仕組みが随所に見られた。館内外で多様なボランティアが関わり、大学・企業との連携イベントも実施されるなど、地域資源を広く活用した運営体制が特徴である。
季節ごとのイベントや特別展示を毎年更新し、SNS 発信やキャラクター活用による広報も行われており、リピーターを意識した取り組みが進んでいる。施設規模が大きい中でも、安全管理や動線など現場運営の工夫が確認できた。
小野市における児童関連施設を検討するうえで、子ども主体の体験設計、地域との協働、継続的に魅力を高める仕組みづくりといった点が参考になると感じた。

【第３日】
《視察先》福井県庁

≪視察項目≫
ふく育県の子育て支援について

≪視察内容≫
福井県では、社会全体で子どもの“よろこび”と子育ての“よろこび”を分かち合い、次世代につないでいくことを目指し、総合的な子育て支援策「ふく育県」の取組を進めている。県は、家庭や地域のつながりを大切にする福井ならではの環境を基盤に、多様な夢や希望がかなう社会の実現を図っており、支援は「経済的負担軽減」「利便性の高い子育てサポート」「仕事と子育ての両立支援」の３本柱で展開されている。

１．経済的負担の軽減
・第２子以降の保育料・高校授業料の無償化
・高校３年生までの子どもの医療費を無償化（1 町のみ中学３年まで）。
・在宅育児応援手当として、第２子以降の 0～2 歳児に月１万円を支給（所得制限あり）。

２．利便性の高い子育てサポート

・子どもの病気回復時や保護者のリフレッシュ休息に利用できる 一時預かりサービス「ふく育さん」 を提供。

・通院や買い物など外出をサポートする 「ふく育タクシー」 の利用支援。

・子育て世帯が割引や優待を受けられる 「ふく育パスポート」 を発行。

・SNS や動画を活用し、若い世代に向けて子育て支援情報を分かりやすく発信。

３．仕事と子育ての両立支援

・男性の育児休業取得を推進する企業への奨励金制度を設け、男性育休が当たり前となる社会づくりを後押し。

・長期間の育児短時間勤務や不妊治療休暇の取得を促進する 「ライフプランサポート企業」認定制度 を実施。

・企業の働き方改革の推進、男性育休の取得率向上につなげるため、県独自の認定制度や研修・周知啓発を展開。

４．男性育児休業の取得状況（R6）

・ 福井県における男性育児休業取得率は 44.9%（前年比 +13.5%）と過去最高。

・ 2 週間以上の育児休業を取得した男性は 63.7% へと大幅増加。

・ 特に 1 か月以上の休業取得者が大きく増加 しており、全国平均を大きく上回る水準となっている。

５．県民アンケートから見える評価

・ 県民の 7 割以上が「福井県は子育て施策に力を入れている」と評価。

・ 10 代では 84.5%が評価しており、若年層ほど評価が高い傾向。

・ 今後強化すべき施策として　仕事と子育ての両立支援（42.8%）経済的負担軽減（28.7%）を求める声が多い。

６．広報・啓発の重点取組（ふく育さん・ふく育タクシー）

・ SNS や動画、専用アプリを用いた周知に力を入れ、若年層の利用を促進。

・ 利用者の声をもとに、サービスの利便性を高める改善を継続。

７．県と市町の役割分担

・ 県は制度設計・広域事業・企業支援を担い、市町は家庭に近い支援を展開。

・ 双方が連携し、切れ目のない子育て支援体制を構築している。

≪所　感≫

今回の視察を通じて、福井県が「ふく育県」という明確な理念のもと、子育て支援を体系的に整理し、県全体として一体的に取り組んでいる点が印象に残った。特に、支援策が単発の施策ではなく、「経済的負担の軽減」「利便性の高いサポート」「仕事と子育ての両立支援」という 3 本柱として整理され、住民が理解しやすい形で提示されている点は参考になった。また、男性育児休業の取得率が全国平均を大きく上回り、長期取得者が増えている背景には、単に制度を設けるだけでなく、奨励金制度や企業向け認定制度、働き方改革の推進など、複数の施策を組み合わせた段階的なアプローチがあることが分かった。県と企業の双方が役割を明確にし、連携して環境整備を行っている点は、小野市の今後の施策検討においても重要な視点となる。

令和　7年　11月　19日

小野市議会議長　平田　真実　様

民生地域常任委員会
村本　洋子

行政視察報告書

先般、実施しました　民生地域常任委員会　行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1　視察実施日　　令和　7年　11月　5日（水）～令和　7年　11月　7日（金）

2　視察メンバー

喜始委員長、安達副委員長、掘井委員、宮脇委員、村本委員、河島三奈委員
山本悟朗委員、藤原委員

3　視察先及び調査内容

（1）シェア金沢（金沢市若松町セ104番地1）

シェア金沢について

高齢者、障害のある人、子ども、学生など様々な世代や立場の人が「人を分け隔てしない街づくり」を目指し、「ごちゃまぜ」となって共に暮らし、交流することをコンセプトにした多世代共生型コミュニティの取り組みについて

（2）有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）

スマート農業について

（3）福井県児童科学館(愛称：エンゼルランドふくい)

概要と館内視察

(4) 福井県庁（福井県福井市大手３丁目１７－１）

ふく育県の子育て支援について

４　調査結果

【第１日】

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢の取組について

≪視察内容≫

経営主体は　社会福祉法人　佛子園で、福祉施設を中心に数多くの場所で様々な世代や立場の人々が「ごちゃまぜ」となって共に暮らし、交流することをコンセプトにして事業を展開している。

旧国立若松病院の跡地１１,０００坪の敷地内は低層階の建物がゆったりと配置され、入り組んだ小径や一部森を残して、自然との共生と人と人とが触れ合う街並みを形成している。もともとはこどもたち30人のために作ったShare金沢では児童福祉施設のほか、サービス付き高齢者向け住宅やアトリエ付き学生住宅、戸建て住宅など様々な施設が配置されている。これにより、入居者が日常的に交流し、互いに支え合う環境が生まれている。

敷地内には、天然温泉、レストラン、カフェ、アルパカ牧場、ドックランなどの施設があり、これらは地域住民にも開放されている。特に天然温泉は交流促進に大きな役割を果たしている。

【主な事業】

障害児関連施設

障害児入所施設　定員 30 名

放課後等デイサービス　定員 10 名

グループホーム　定員 27 名

ワークセンター（就労継続 A 型、B 型、他）定員 40 名

高齢者関連施設

サービス付き高齢者住宅　３２戸

通所介護事業

訪問介護事業

一般者利用施設

学生向け賃貸住宅　６戸

1LDK で家賃 35,000 円　敷金不要　月 30 時間のボランティア活動が必須

天然温泉、レストラン、カフェ、アルパカ牧場、ドックラン、料理教等々

≪所　感≫

縦型福祉から脱した誰もが分け隔てなく暮らすことは、みんなで街を作っていた昔の地域コミュニティの再生だと気づかされました。土地柄、人柄に応じて地域の人々と丁寧に関わり、「正論では人は集まらない、ワクワクに人は集まる」との言葉に共感しました。

街の中に居ながら、ゆったりと自然豊かな現場を見学し、環境の素晴らしさに感動しました。虐待を受けた子どもは職員との関係性より、学生や高齢者の方等のフラットな関係からのふれあいがこどもたちの成長に良い影響を与えているそうです。

知的障害のある方も排除することなく、最高のパートナーである、福祉人材がいないところ、就労を通じて人材育成しているとおっしゃっていました。

小野市でもこのような大きな規模ではなくても、かつての良きコミュニティを再生させるような場所や事業を行政だけでなく、民間や地域住民と一緒に創り上げていくことができたらいいなと思いました。

【第２日】
《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
　スマート農業について

≪視察内容≫
　安井ファームは、石川県内一の生産量を誇るブロッコリーをはじめ、水稲や大豆、キャベツ、白菜などの多彩な農作物を栽培する北陸最大規模の複合経営ファーム。
　法人化したのは約 20 年前、もともとは家族経営の一農家だったが、地域農業の未来を見据え、経験のなかった園芸栽培に乗り出し、ブロッコリーの越冬作に挑戦した。秋に植えて年を越して春に収穫する新たな技術を確立した。

主な取り組み

- 自動化農機の活用
  ロボットトラクターによる無人耕起作業
  オートトラクターによる効果的な畝立て作業（GPS 車速連動施肥機付き）

- 収穫作業の効率化
  ドローンを活用した葉色解析サービス（いろは）で、花蕾を空撮し AI が収穫適期を診断
  加工用出荷体系では全自動収穫機の活用

- 直売所「花蕾屋」
  社員からの発案から 2019 年 10 月に誕生
  営業日　　木・金・土曜
  営業時間　10 時～17 時
  主にブロッコリー販売
  試験的に栽培した珍しい野菜・干し芋・カレー・ソースなど自社オリジナル商品も販売

- 従業員数
  常勤　　10 人
  パート　　14 人
  外国人技能実習生　11 人

≪所　感≫

多様で柔軟な働き方や社員がやりたいことのできる環境づくりなど、社員と一緒に創出され、企業価値の向上につなげている取り組みは素晴らしいと思います。

グローバル GAP 承認取得や SDG s 宣言などにも取り組まれ、若い世代やこどもたちにも企業としての魅力を発信されているところはさすがだと思いました。

スマート農業への取り組みはこれからの人口減少時代、特に農業人口の減少においては重要で急務だと思います。しかし、安井ファームの代表もおっしゃっていましたが、決して簡単ではなく、生半可な気持ちでは飛び込めないものです。「食」は生きていく上で欠かせないものであり、その根幹を担う農業は必要不可欠です。

農業の未来を見据え、持続可能で安定した収益性の高い仕事として、若い人にも選ばれる仕事になって欲しいと実感しました。

≪現地視察先≫
福井県児童科学館　（愛称エンゼルランドふくい）

《視察内容》
1.　施設の概要
　①　所在地　　福井県坂井市春江町東太郎丸 3－1
　②　設置主体　　福井県
　③　指定管理者　ふくい福祉事業団・丹青社
　　福井県児童科学館運営事業体
　④　設置目的　　遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ることを目的として設置（児童福祉法に基づく児童厚生施設）大型児童館

2．利用時間
　①　開館時間　午前 9 時 30 分～午後 5 時
　②　休館日　　月曜日（休日を除く）休日の翌日　年末年始(12/２８～1/4)
　　7/21～8/31 は休まず開館

3．建物の概要
　①規模　敷地面積　54,906 ㎡
　　建物構造　本館　鉄筋コンクリート地上 2 階（一部 3 階）
　　別館　鉄筋コンクリート地上 2 階
　　建築面積　5,752 ㎡（延床面積 7,075 ㎡）
　　駐車場　　普通車３６０台・大型バス 10 台（無料）

　② 総工事費　約 110 億円（土地取得を除く約 88 億円）

4．経緯
　平成 4 年度　　基本構想計画
　平成 5 年度　　基本計画策定
　平成 6 年度　　基本設計、地質調査、用地取得
　平成 7 年度　　実地設計
　平成８～10 年度　　建築、展示工事（工期平成 8 年 10 月～平成 11 年 3 月）
　平成 11 年 6 月 1 日　開館

5．名誉館長

　宇宙飛行士　毛利　衛　氏　（平成 11 年 6 月～）

毛利衛氏は、父親の正信さん（故人）が福井県坂井市春江町の出身であり、福井県とゆかりが深く、また館内には宇宙・科学の展示ゾーンを設置していることなどから、名誉館長に就任されている。

6. 主な利用層と利用プログラム

平日　午前　　未就園児と保護者　子育て講座・あそびの広場　など
　　遠足・校外学習　　団体利用プログラム
　　（こども園・小学校など）　・スペースシアター　（学習投映）
　　・クラフトルーム　　（工作教室）
　　・コミュニケーション・ラボ
　　・サイエンスショー
　　・コンピュータールーム
　　放課後　近隣小・中学生　　放課後児童向けプログラム
　　・スペースシアター
　　・クラフトルーム　など
土日祝夏休み　未就学児、小・中学生やその家族団体
　　・自主企画イベント、各種連携イベント、企画展
　　・スペースシアター・クラフトルーム
　　・おみせやさん・コミュニケーション・ラボ
　　・サイエンスショー　など
GM.・お盆　　県内全域の家族・県外から旅行中の家族・帰省した家族
　　・企画展、特別イベント
　　・スペースシアター・クラフトルーム
　　・サイエンスショー　など

7. 最近の新たな取組

・SNS による積極的な発信・キャラクターによる広報強化
・リピーターの来館促進・外部との連携強化の拡大
・こどもたち声を聞く取組み強化・あそび場の充実
・小学生以上の居場所確保　・ボランティアの活動の拡大

《所感》

6 年連続幸福度ランキング 1 位の福井県が取組む子育て支援の本気度がこの施設からも伝わってきました。職員からのアイディアを募集して積極的に取り組んでおられます。私たちが行った平日の午後、学校が終わった時間にはたくさんのこどもたちで賑わっていました。

楽しく遊びながら自然と学べるこのような大型児童館が近隣にあったらと、とても羨ましく感じました。しかし、このような大型児童館を運営管理していくには、たくさんのマンパワーや資金等も含め課題が山積していると思います。

広域連携で行うとか、県の施設を誘致するなど模索して子育てをしっかり応援する体制の構築を推進していきたいと思いました。

【第　３日】

《視察先》福井県こども未来課、ふく育推進グループ

≪視察項目≫

ふく育県の子育て支援について

≪視察内容≫

「ふく育県」の概要

日本一幸福な子育て県「ふく育県」の推進

「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援を実施

【支援の一例】

- 結婚祝い金
- 日本一の不妊治療支援（自己負担額の上限６万円）
- 妊娠出産時の経済支援
- 日本一の男性育休支援
- 日本一のふく育応援　（第２子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無償化）
- 中学生までの医療費無償化（市町によっては独自に補助）
- 「ふく育さん」「ふく育タクシー」（子育て世帯の家事・育児、外出を支える）
- 「ふく育」パスポート（県内店舗で割引等を受けられる）
- 全天候型の遊び場整備

ふく育県ブランドの発信

- テレビ CM,SNS 広告、デジタルサイネージ広告等
- こども・子育て応援イベント　「ふく育祭」を開催
- 新聞広告、ハンドブック制作、周知

取組みの成果

手厚い子育て支援により合計特殊出生率の高水準を維持する等、出産・子育ての環境整備に一定の成果

- 合計特殊出生率　R6　１．46（全国２位）
- 全国で唯一前年の出生率維持
- 第１子と第２子の合計特殊出生率は全国１位
- 男性育休取得率、過去最高となる 44．9％
- ２週間以上の育児休業を取得する男性割合が 63．7％に増加

「ふく育県」の子育て施策の評価（R5 県民アンケート）

県民アンケート回答者の７割以上が、福井県の子育て施策を評価

（若い世代ほど評価が高い）

今後強化すべき子育て支援策は

仕事と子育てが両立しやすい労働環境整備を求める声が最も多い

経済的負担の軽減、家事育児のサポート

≪所　感≫

県が子育て施策を展開され、社会全体で応援する風土の醸成や子育て環境が充実しています。未来を担うこどもや将来「パパ・ママ」になるかもしれない若者や子育てに奮闘中の世代の意見を聞き「ふく育モデル」が出来上がったそうです。

小野市は高校生までの医療費の所得制限なしの無償化で子育て支援をしていますが、もっと若者が夢や希望をもって幸せな未来につながるように取り組みたいと思います。

先進的な福井県の子育て応援計画を参考にして当事者の意見をよく聞き、小野市の魅力ある子育て環境に貢献したいと思いました。

令和７年11月19日

小野市議会議長　平田真実　様

民生地域常任員会
河　島　三　奈

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　視察実施日　　令和７年11月５日（水）～令和７年11月７日（金）

２　視察メンバー

喜始真吾（委員長）安達哲郎（副委員長）
掘井ひさ代　宮脇健一　村本洋子　河島三奈　山本悟朗　藤原章

３　視察先及び調査内容

（１）シェア金沢について
　　〇多世代共生型コミュニティの街づくりについて

（２）有限会社　安井ファーム
　　〇スマート農業について

（３）福井県
　　〇現地視察　福井県児童科学館について
　　〇ふく育県の子育て支援について

４　調査結果

【第１日】

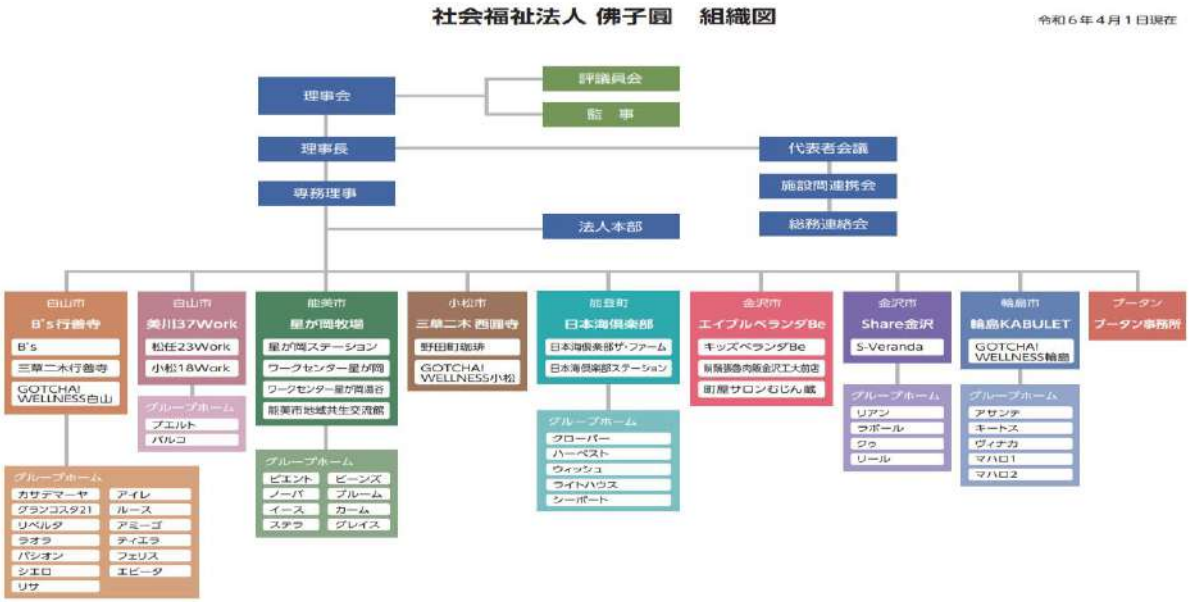
《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢　多世代共生コミュニティの街づくりについて

≪視察内容≫

Share 金沢の経営主体は、社会福祉法人佛子園で、組織図は下記のとおり、白山市、能美市、小松市、能登町、金沢市、輪島市、ブータンなどで広く事業展開している。



① 施設の概要

（視察先提供資料より引用）

施設内主な事業

障害児入所施設　定員 30 名

放課後デイサービス　定員 10 名

障碍者

　グループホーム　定員 27 名

　ワークセンター　定員 40 名

　（就労継続 A 型、B 型、他）

高齢者

　サ高住　32 戸　月額 14 万円

　家賃 8.5 万　共益費 2 万

　状況把握生活相談　1.5 万円

通所・訪問介護

一般者　学生向け賃貸住宅　6戸　1LDK3.5万円　敷金なし
　　月30時間のボランティア活動が必須
施設　　温泉、食事処、ドッグラン（無料）料理教室　など

② 取り組み
現在は、「NOTO not ALONE」のキャッチフレーズで震災からの復興に力を入れられていました。自分たちで立ち上がり、「自助・共助・公助」の大部分を占める自助・共助を体現していました。少しずつ持ち直してきていると感じた被災地ですが、やはり爪痕は大きく、物理的・精神的なつながりを含め、震災前の状態には戻るのは難しいのではないか、と思いながら話を聞かせていただきましたが、説明をされていた職員さんからは悲壮な感じは全くなく、何とかなるし、何とかするとの楽観的な感じがうかがえ、今までの実績に確かな自信をお持ちなのだなと感じました。

③ 課題と解決（と感じたところ）
先進的な考え、あるいは取り組みを推進するにあたって、枷となるのは「公共」の概念であるところが大きいのかなと感じました。それもあり、外国をはじめ多数の「視察」を受け入れているのは「柔軟性」をもって事業を進めることが必要であるとアピールすることが目的の一つかもしれないと感じました。
※追記　過去、高知県の丸亀商店街の取り組みを視察に行ったときに同じような話されていたことを思い出しました。その時はもっと厳しい言葉でした。

≪所　感≫
座学にて施設の概要、成り立ち、取り組みなど多岐にわたるお話を聞かせていただきました。その中で特に印象に残ったことが、「健康」に必要なことは、身体的・精神的・そこに社会性が不可欠であるということでした。児童施設の子どもたちを預かることがきっかけで、社会性を求めて多世代共生の街に広げていき、「障害の人も人材に」「最後まで孤独でない人生を」「人と寄り添い、つながる」ことを基本に、福祉の面では、「支援する人・される人」を分けてしまうのではなく、自分にできることをなんでも「人のために」する。子育ての面では、老人施設のおばあちゃんが子どもの話を聞くなど、「古き良き昭和のコミュニティ」を彷彿させ、まさにコンセプトの「ごちゃまぜ」が体感でき、いいえて妙だなと感じました。また 18 歳になれば児童施設を出なければならない子たちのためにグループホームを敷地内に建設し、温泉などの商業施設で就労する。一つの街ができ、必要であると思われるものを増やしながら町を充実させている「自然体さ」が素晴らしいと思いました。加えて、組織には、若い世代の方も多く、お金はすぐに集められるが問題は手法で特に公共（自治体など）が相手では「目的外使用」といわれうまくいかないことも多い。しかしシェア金沢の場合は賛同して協力してくださる議員などのアドバイスなどで進められたとの話もありました。どこのどの取り組みを勉強させていただいても何かのタイミングがうまく合えば目指したことがスムーズに動くけれど、たった一つのことですべてが止まってしまうこともあるのだと感じました。

【第２日】
《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
スマート農業の取り組みについて

≪視察内容≫
座学にて、説明をうける。
基本理念「農業を通じて、働く人の幸せと、お客様の幸せを実現します」
① 概要
・H13　有限会社安井ファームを設立、現在は白山市内に 3 か所の圃場を所有
・合計面積は 162 ヘクタール（うち自己所有は 2 ヘクタール）主に借地経営
・従業員数は、常勤 10 名、パート 14 名、外国人技能実習生 11 名の合計 35 名
・常勤は 10 代～30 代の男性で全国からきている。
② 取り組み
・主要な作物はブロッコリーで、連作障害の対策も含め、水稲、大豆などで圃場のローテーションを組んでいる
・雨が多い地域で野菜類の生産が非常に困難な場所であるが、ブロッコリーの生産は、害虫の被害が少ないことから、生産技術を効率化させることで安定的な栽培が可能となっている。
・県内ブロッコリーの約 3 割を安井ファームで卸している。
・大きく美しく、おいしいブロッコリーで、東京などの市場でも人気は高い。
・SDG s 宣言や GLOBALG.A.P 認証を再取得するなど、国際的にも通用する手法を使って取引相手にアピールする。
③ スマート農業について　　<u>実践と効果・課題</u>
１）ロボットトラクター
→　隣接する二つの圃場で一台を人が、一台を自動で運転するなどの運用のようだが、効果は面積が 50 ヘクタール以上の圃場でないと難しい。
２）自動定植機
→　苗の生育が均一でないと、効果をだすのは難しい。
３）ドローンによる生育状況の確認
→　畝ごとに生育が異なる作物なので、人間がすべて視認することと比較すると、効果は絶大。
４）収穫機
→　メリット＝中腰でする作業は体に負担が大きかったがそれをしないので楽
デメリット＝作業時間は人力のほうが効率的
生育の悪いものを残しておけない

５）大規模化のメリット
→大型の冷蔵庫、大型の製氷機を所有することで鮮度を保ったまま作物の大量

保存が可能

→日程を調整して作付けを年２回行う、ほぼ通年でのブロッコリーの出荷が可能となり、また、量の調整も可能なことから欠品や余剰のリスクがほぼ無し

→ＪＡなどを通さずに直接販売店と取引を行っているので、取引価格や数量において安定した事業展開ができている。

６）外国人技能実習生

→農業における単純な作業では覚えも早く、熱心に仕事に励んでくれ、３年という期間は雇う側である会社も雇いやすい。

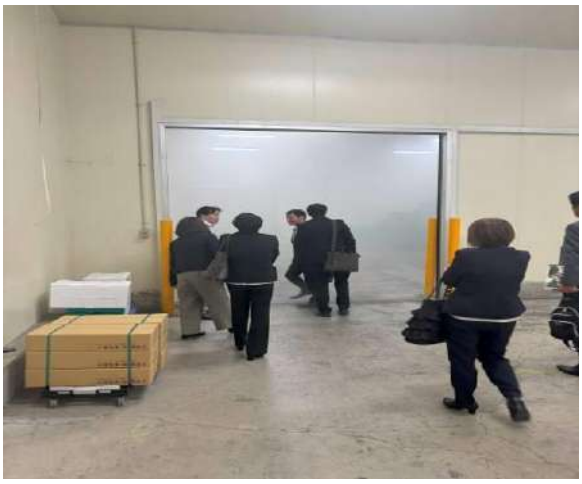
７）ブランド化

→安定供給に努めることで、大型販売店で扱ってもらうことができ、結果知名度のアップにつながる。

④ 課題（と感じた）

大規模農業を行う上での土地取得の大変さ、それとスマート農業の導入に際して、そのプラス面をどう最大限活用できるように環境を整備できるかだと感じました。

説明を聞いている様子



大型冷蔵庫を見学する様子

≪所　感≫

スマート農業の取り組みが話題に上り始めてから数年経ちますが、熱狂的に聞こえてくるものではなかったように感じていましたが、実際に取り入れられている現場の話を聞かせていただいて、やはり難しいものなのだと実感しました。とにもかくにも量的な確保が重要で、北海道ならともかく、小さな土地の田舎町では、ドローンの整備しかできないのではないかと考えます。ただ、「農業で暮らしていけるように」「稼げる農業」を目的に工夫を凝らし、できるものはすべて貪欲に取り入れ、就労者の志を大切にしている姿勢が素晴らしいと思いました。

≪現地視察先≫
福井県児童科学館
≪視察内容≫
児童科学館は座学にて説明を受け、その後施設内を見学させていただいた

※説明を受ける様子

※施設内見学時の様子

１）施設の概要
福井県内に６か所ある全天候型の施設の一つで、愛称は「エンゼルランドふくい」広い建物と芝生広場を有する子どもの遊び場。平成 11 年に開館、同年宇宙飛行士の毛利衛さんが名誉顧問に就任。科学、宇宙に触れられる展示物と恐竜の形をした室内遊具など、未就学児や、小学生を中心とした室内の遊び場として地域の方々に親しまれている。

２） 遊び場
恐竜の形をした室内大型遊具に、滑車や梃の原理を勉強できる遊具、スペースシアターと呼ばれるプラネタリウムに、科学の実験ができる小劇場型の部屋、二階の通路もまるで遊具のように一回を見渡せられる造りで、見学時に遊びに来ていた幼児たちも楽しそうに遊んでいた。芝生広場では学校が終わった子どもたちがいつの間にかたくさん集まり、これもまた大型の遊具で走り回って遊ぶ姿がみられた。

３） 取り組み
子どもたちが楽しんで遊べ、かつそれが学習にもなるような、様々な企画を提案している。特に廊下のちょっとしたスペースに、買い物、料理をコンセプトにした手作り感満載のコーナーを発見した。スーパーの仕様にした棚からおもちゃの食材を選び、中古で購入した本物のレジでお支払いをする。その購入する食材は、こちらも手作りレシピの中から選択する。という流れで、難易度を変えレベル分けをし、ほんの幼児から、小学生まで楽しめるような作りになっている。これを考案したのは若手の職員で、自分たちの考えを形にできるような職場環境になっており、職員さん方も楽しく仕事できている様子だった。

また、違うブースでは、宇宙や、気象などの理科系を学べるようなものもあり、子どもたちの成長に合わせて設計されていることがわかる。

４） 課題

特に建物と設備の老朽化が進み、プラネタリウムなどは交換備品がないので、調子が悪くても無理やり整備して使用している現状。改装のための予算要求はしているが、なかなか採択は難しい様子だった。

≪所　感≫

天気が悪い地域であることは、前日の安井ファームの視察時にも説明を受けていたところで、「子どもが遊ぶ」ということにも影響があるのだなと今更ながら感じました。

これはひとえに自らの生活圏が「天気が良くない日が多い」ということがない恵まれたところであるということを再確認した次第です。

福井県は、県をあげて「子育て」に力を入れ、子どもの教育も非常に熱心に取り組みをされているところです。過去には、学力の高い県として教育的視点の視察など先進地に挙げられていたところで、それは現在も変わらず、継続されているのだなと推察します。このエンゼルランドふくいの特筆すべき点は、かなりの面積を誇る施設であるのに住宅街の真ん中に位置するところです。「学校帰りにすぐ行ける」ことが一番の重要なところで、対象者は小学生だけではない、中学生、高校生の子たちも集まっていましたし、大学生や、大人になると今度は、ボランティアなどで活動し、「つながりが絶たれることがない」点が素晴らしいと思いました。現在こども家庭庁では、高校生、中学生の居場づくりを推進することを通知していますが、ここは、良い事例の先鋒なのではないかと思います。小野市にも類似施設、または部屋が欲しいと市民からお声を聴いて久しいですが、このような施設は到底無理なので、システムや連携の仕組み等なら取り入れることが可能なのではないかと考えます。

【第３日】

《視察先》福井県こども未来課、ふく育推進グループ

≪視察項目≫

ふく育県の子育て支援について

１）施策の概要

・日本一幸福な子育て県「ふく育県」の推進→R4、知事宣言

・「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実施

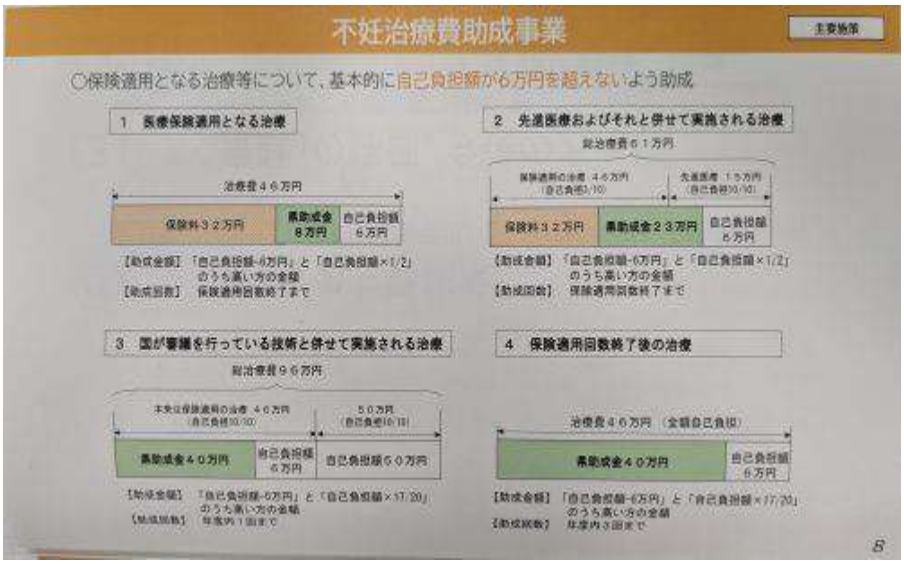
・ふく育県ブランドの発信 TVCM、SNS などの広報発信に力を入れている。

→認知度は県内外で倍化。UI ターン移住者の増加につながった。

→合計特殊出生率　R6 年 1.46（全国 2 位、第 1 子第 2 子は全国 1 位）

２）主要施策

１・不妊治療助成事業



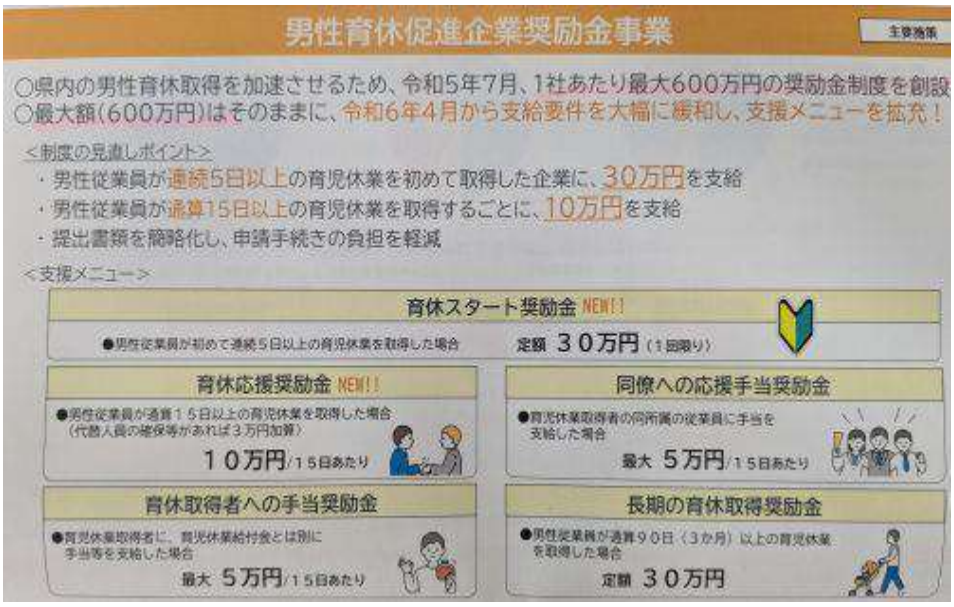
（視察先提供資料より引用）

実績→保険適用範囲が拡大した R4 年度以降毎年増加

R4＝966　R5＝1,440　R6＝1,732（件）

内容→先進医療との組み合わせによる治療の割合が増加

２・男性育休促進企業奨励金事業



（視察先提供資料より引用）

（参考）福井県における R6 年度男性育休の取得状況＝44.9%（過去最高）

２週間以上の取得率は 63.7%

県庁職員は 100%

○課題＝取得の期間が短い、男性の産後うつが広がっている

→父親のケアを検討、父親の居場所づくり等

３・ふく育応援プロジェクト
　＝子どもを２人以上育てる世帯への経済的支援
（内容）
　a)ふくい在宅育児応援手当＝第２子以降０～２歳児を在宅育児　月額１万円支給
　b)保育料の無償化＝第２子以降無償（所得制限撤廃 R6/9～）
　c)一時預かり事業＝就学前の第２子以降無償
　他、すみずみ子育てサポート事業、病後保育事業など。
５・こども医療費助成事業
　中学３年生までの子どもを対象、実施主体は市町のため、県との役割分担を心がけている（県が費用の 2/1 を助成するものだが、極端に出生率が低い町では実施はされていない）
６・すみずみ子育てサポート事業
　＝就職活動、疾病、事故、冠婚葬祭、学校行事等で一時的に子育てに対する芯が必要な場合の支援をするため、民間の子育て支援サービスを利用する場合の料金の一部を県が・市町が補助するもの。
　→「地域で子どもを育てる」意識の醸成
　　頼れる親族のいない移住者が増加している中で必要性は上がっている。
課題としては、民間サービスが弱めなこと
６・「ふく育さん」と「ふく育タクシー」
　ふく育さん（ベビーシッター）の派遣
　ふく育タクシー（県の研修を受講した認定ドライバーによるタクシーの運行）
７・Ｒ7 年度の新規施策
　〇ふく育さんの利用者負担の軽減
　〇育児負担の大きな世帯（多胎児、医療的ケアが必要な子どもなど）へ共通クーポンの配布
　　→新生児世帯には 1,000 円分
　　ひとり親、多胎児、医療的ケア世帯には 48,000 円分
８・子どもの遊び場整備事業
　全天候型の施設の整備（新設、改修、拡大）に要する市町事業の費用補助
　＝補助基準額（1 億円）補助率 100％
（実績）小浜市・・キッズプレイパーク「なないろ」
　　大野市・・おおの天空パーク「ＯＳＯＲＡ」
　　福井市・・福井市中央公園「しろっぱ」
　現在は県内 17 市町において計画を実行中
　＝完成 4 施設・設計整備中 11 施設、検討中 2 件

３）評価
　令和５年度福井県長期ビジョンの実現に向けた県民アンケートの結果によると、回答者の 7 割が施策を評価しているが､20 代～40 代の回答では厳しい意見も上がっている。

理由としては、Ｉターン移住者が増えているので、求める水準が高くなり、評価としては厳しい意見になるのではないかということが考えられるとのこと

４）今後の方向性

アンケート結果によると、全年代で仕事と子育てが両立しやすい労働環境整備を求める声が最も多く、次いで経済的負担の軽減、家事育児のサポートと続く状況なので、これらを継続、改良する必要がある。加えて合計特殊出生率を維持することが大切。また、全国的なアンケートでも、子育て支援に対する満足度が高いと合計特殊出生率が高いとの傾向も読み取れるので、支援策に対する、周知徹底をはかっていくことが大切と考える。

≪所　感≫

福井県の子育て支援策に対する予算は、Ｒ２年度で 20 億円ほどだったのが、Ｒ４年の知事宣言を経て、Ｒ４年で倍の 40 億、Ｒ６年では 50 億の規模になっている。これだけ規模を増やせば、減額や、事業の見直しも必要になってくるのではないかと思っていましたが、行政サービスを削るのではなく、業務の効率化、超過勤務の是正、人件費の工夫などで、対応しているようでした。またＲ８年度からは高齢者支援も重点目標に挙げていくようで、ますます公金の采配が重要になってくると思いました。これだけ思い切った公金の使い方に何か歳入面で変化があったのかと思いましたが、Ｒ４に核燃料税の税収が増加するタイミングだったようで、そちらの歳入分が直接的に県民に対する手厚い施策に充当されることは、素晴らしいと思います。また県庁の建物の老朽化など、ハード面での整備も必要になってくるようですし、そちらとのバランスなど、これからも注視していく必要のある県の施策だと思いました。

令和７年11月７日

小野市議会議長　平田　真実　様

民生地域常任委員会
山　本　悟　朗

委員会視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　視察実施日　　令和７年11月５日（水）～令和７年11月７日（金）

２　視察メンバー

安達哲郎　掘井ひさ代　宮脇健一　村本洋子
河島三奈　藤原　章　　喜始真吾　山本悟朗

３　視察先及び調査内容

（１）シェア金沢（金沢市若松町セ104番地1）
シェア金沢について

（２）有限会社　安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
スマート農業の取り組みについて

（３）福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３－１）
福井県児童科学館　エンゼルランドふくいについて

（４）福井県庁（福井県福井市大手３丁目１７－１）
ふく育県の子育て支援について

４　調査結果

【第１日】

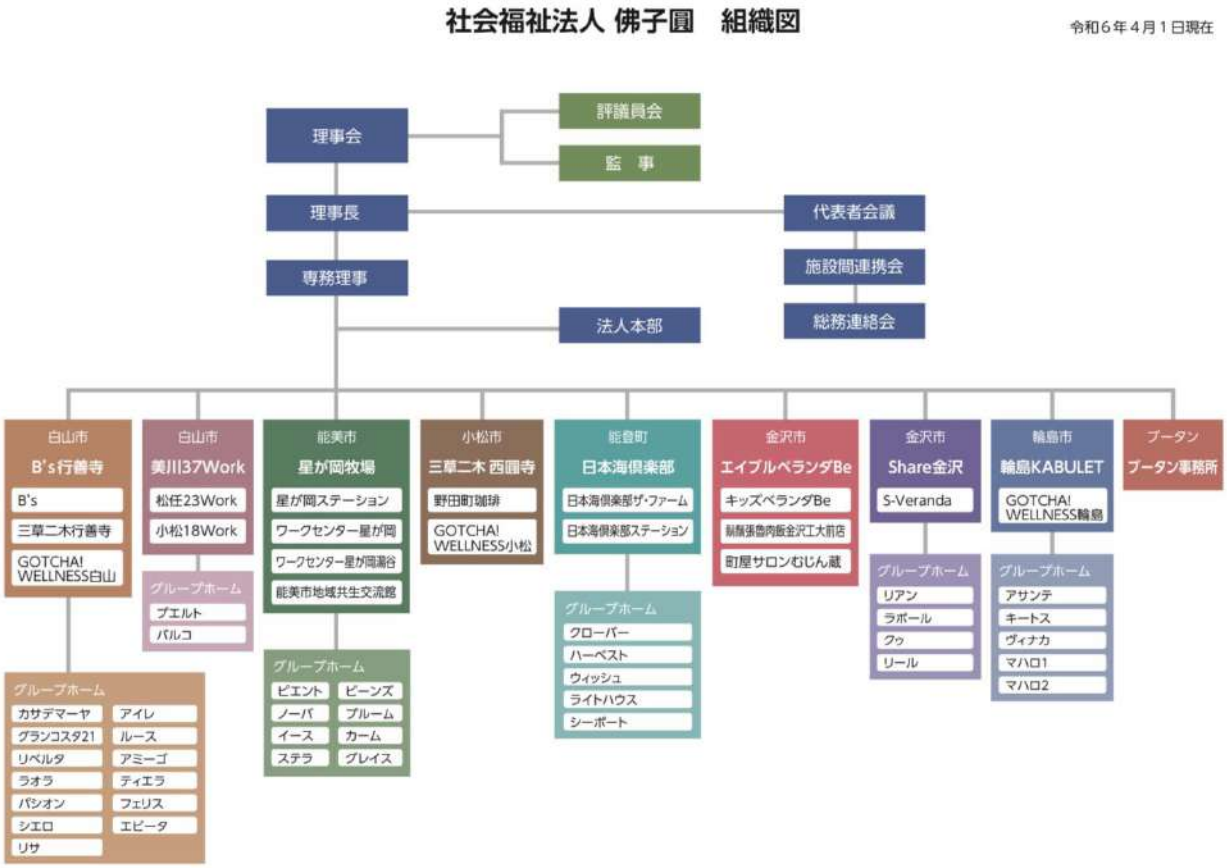
《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢について

≪視察内容≫

シェア金沢の経営主体は社会福祉法人佛子園で、下図の通り、福祉施設を中心に数多くの場所で同様のコンセプトのもと事業を展開している。



（視察先提供資料より引用）

視察した Share 金沢では、次ページのような事業展開がなされている。

11,000 坪の敷地内は低層階の建物がゆったりと配置され、入り組んだ小径や一部森を残して、

自然との共生と人と人とが触れ合うな街並みを形成している。

施設の一番の特徴は　施設に入所、通所する人々の触れ合いを大切にしていることで、障害児、高齢者が近くに住い、施設の一部を共用できるようにしているばかりか、健常者が利用する施設の共用、施設内での障害者の雇用も行っている。

SOUTH地区

- S-1 天然温泉 ／ 蕎麦処 YABU丹 ／ S-Grill.(配食サービス) ／ 高齢者デイサービス・生活介護・訪問介護

EAST地区

- E-1,2 障害児入所施設
- E-3 YABU丹 製麺所
- E-4 クリーニング＆コインランドリー「おしゃれ洗料 ハンズプラス」
- E-5 バックヤード
- E-6 児童発達支援センタ「S-ベランダ」
- E-7 金沢BBフィールド
- E-8,9 ネイチャー・コミュニケーション「NPO法人 ガイア自然学校」
- E-10 全天候型グラウンド「S-Stadium」

MIDTOWN

- M-1 障害児入所施設
- M-2,3 サービス付き高齢者向け住宅
- M-4,5,6,7 学生向け住宅
- M-8 ネイチャー・コミュニケーション「NPO法人 ガイア自然学校」
- M-9 サービス付き高齢者向け住宅
- M-10,11 学生向け住宅
- M-12 障害児入所施設
- M-13 サービス付き高齢者向け住宅

NORTH地区

- N-1 日用品・生活雑貨「若松共同売店」
- N-2 ボディケア&からだ塾「金澤東山ゆらり」
- N-3 ブータン・セレクトショップ「TARAYANA JAPAN」
- N-5 Publish Bar「Mock」
- N-6 Foods & Smile「加藤キッチンスタジオ

WEST地区

- W-1 NICOLE DOG
- W-2,3 サービス付き高齢者向け住宅
- W-4 「ウクレレバイナ金沢」

（視察先提供資料より引用）

前ページ記載の施設内での主な事業は以下の通り
障害児関連施設
障害児入所施設　定員 30 名
放課後等デイサービス　定員 10 名

障害者関連施設
グループホーム　定員 27 名
ワークセンター(就労継続 A 型、B 型、他) 定員 40 名

高齢者関連施設
サービス付き高齢者住宅　32 戸
　月額費用　合計　140,000 円
　家賃 85,000　共益費　20,000 円　　状況把握生活相談費　15,000 円
通所介護事業
訪問介護事業

一般者利用施設
学生向け賃貸住宅　　6 戸
　1LDK で家賃 35,000 円　敷金不要　月 30 時間のボランティア活動が必須
温泉、食事、ドッグラン、料理教室　等々

≪所　感≫
座学の中で講師が繰り返し私たちに伝えたのは
「健康の三要素は　身体的　精神的　社会的　に健康である事で、多くの福祉の現場では、社会的健康が損なわれている。」ということだった。
一般的な福祉の事業所では、事業の縦割りと、安全第一との考えから、ともすれば対象者が触れ合う人は福祉事業人材に限られていく。また、サービスをする側と受ける側の立ち位置が固定化する。
しかしながら、障害児入所施設が事業の出発点であった Share 金沢では、子供たちが成長したのちには、社会の中で暮らしていくことを前提に、施設の中に社会生活を取り込み、他方の社会的弱者である高齢者や地域の健常者と共に暮らしていく施設を運営している。
縦割り行政の中で福祉関連の補助金の利用や制度の壁など障壁は多いが、「成功例を積み上げる事で障壁は取り除かれていく」との言葉と
「障がいのある人を福祉人材に」との言葉が印象的だった。

【第２日】
《視察先》有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
　スマート農業について

≪視察内容≫
平成 13 年に有限会社安井を設立
現在は白山市内に 3 ヶ所の圃場を持ち、合計面積は 162ha
自己所有は 2ha のみで、残りは借地で経営している。
従業員数は常勤社員 10 名。パート 14 名。外国人技能実習生 11 名。
合計 35 名。
常勤社員の 10 名は 30 代の男性で、農業で食べていく思いを持った若者が全国から集まっている。
162ha の圃場の利用振分は、令和 6 年度の実績で、
ブロッコリー94ha、水稲 45ha、大豆 15ha その他作物 5ha
数字の通り生産の主力はブロッコリーで、連作障害を避ける為、水稲. 大豆等と
圃場をローテーションさせている。

雨が多く野菜類の生産が困難な地方ではあるが、ブロッコリーの生産については害虫被害が少ないことから、技術をむ磨くことで安定した栽培ができている。

［スマート農業について］
視察のテーマとしていたスマート農業については、導入して実績は上がっているものの、水田が５反～１丁の規模がないと効率化に繋がらないとの説明があった。
ロボットトラクター(圃場内全自動)については、隣り合う 2 つの圃場で一台のトラクターを人が操作し、一台を自動運転とするなどの運用をしているが、面積が 50a 以上の圃場でようやく効果が出る。
自動定植期については、苗の生育が均一だと絶大な効果があるが、現実的にはそうはいかない。
ドローンによる生育状況の確認は、畝ごとに生育が異なる作物なので、視認していくことと比較すると、抜群に効果がある。
現在開発されている収穫機は、人力で行うのと比較すると
メリット　　中腰で作業することがないので体が楽
デメリット　作業時間は人力の方が効率的
　　1 畝の全ての作物を刈り取るので、生育の遅いものを残していけない。
という状況。

［大規模化のメリット］
大型の冷蔵施設と大型製氷機を所有する事で、鮮度を保って作物の保存ができるようにしている。
日程をずらしながらの作付けを年２回行う事と合わせて、ほぼ年間を通してブロッコリーの出荷を可能とするとともに、出荷量の調整が可能な為、欠品、余剰のリスクがほとんどない。
また、JA などを通さず、百貨店．スーパーと直接取引を行っているので、取引価格、取引数量において安定した事業展開ができている。

≪所　感≫
スマート農業の切り口で視察に赴いたが、結果として大規模農業のあり方について学んだ気がする。
大規模とは、ただ単に広い面積の圃場で農業を行い生産効率を上げる事ではなく、産地として市場を担う(支配する)規模に育てる事。
消費者　→ スーパー　→ 仲卸　→ JA → 生産者
農業が産業として発展していくためには、生産者は効率を維持しながら、どれだけ消費者に近い所まで近づけるかが鍵となるのではと感じさせる視察だった。

≪現地視察先≫

福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３－１）

エンゼルランドふくいについて

≪視察内容≫

エンゼルランドふくいは福井県が設置している大型児童館

平成１１年６月１日開館

敷地面積　５４，９０６㎡　延べ床面責　７，０７５㎡

来館者は開園当時の３２万人から順調に数字を伸ばし平成２８年には６３万人となる。その後コロナ禍により減少令和６年度は３２万人。

科学館としての役割

平日午前は主にこども園、小学校などの校外学習の場として利用されている。

展示物を見るだけでなく、コミュラボ・ラーニングとして、１３の学習対応プログラムを用意して、１００を超える観察や実験が行える。

土・日・祝日・夏休みには児童生徒を含む家族連れや団体客が利用する。

児童館としての役割

未就園児と保護者を対象として、子育て講座を実施、あそびの広場の用意もある。

屋内外に大型遊具が設置され、休日のみならず、平日の放課後にも多くの児童が遊んでいる。

≪所　感≫

科学館と児童館が融合した立派な施設だった。来場者のリピートを促すための企画・イベントも熱心に行われている。規模が大きくとても市の規模で真似ができるわけではないが、小規模な遊具やイベントなど参考にして取り入れていくことはできる。

兵庫県内には県立こどもの館と、こべっこランド２つの大型児童館があるが、残念ながらどちらにも行ったことがない。一度訪問して参考になるものを得たい。

【第 3 日】
《視察先》福井県こども未来課、ふく育推進グループ
≪視察項目≫
ふく育県の子育て支援について
≪視察内容≫
6 年連続幸福度ランキング 1 位
合計特殊出生率　全国 2 位
の福井県が取り組む子育ての中身について学ぶ。

施策の柱となる項目
① 日本一の不妊治療支援
② 日本一の男性育休支援
③ 第二子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無料化
④ 中学生までの医療費め無償化
⑤ 「ふく育さん」「ふく育タクシー」
⑥ 「ふく育パスポート」
⑦ 全天候型の遊び場を全ち市町に整備
⑧ ふく育ブランドを県内外に発信

施策の詳細(特色あるものを抜粋)
① 日本一の不妊治療支援
a. 医療保険適用となる治療(保険適用回数終了まで)
b. 先進医療を併せて実施する治療(保険適用回数終了まで)
c. 保険適用回数終了後の治療(年度内 3 回まで)
いずれも自己負担額の上限が 6 万円を超えないよう補助
施策の結果、助成内容の比率は a. 41% b 52% c 6% となる。

② 日本一の男性育休支援
県内の男性育休取得を加速化させるため、
令和 5 年、1 社あたり最大 600 万円の奨励金制度を創設
令和 6 年からは支給要件を大幅に緩和
男性従業員が連続 5 日以上の育休を取得　　事業所に 30 万円
〃　15 日以上の育休を取得　さらに事業所に 10 万円
〃　90 日以上の育休を取得　さらに事業所に 30 万円
育休取得者に育児休業給付金とは別に手当等を支給した事業者に最大 5 万円
育休取得者の同僚に手当等を支給した事業者に最大 5 万円
施策の結果男性従業員の育休取得率は全国て平均を上回る。
更に、年度毎に取得期間が長期化。

⑤「ふく育さん」「ふく育タクシー」

子どもの預かり等を担う家事育児サポートシステムを県内全域で実施。
利用料金は 1 時間 2,000 円～2,500 円だが、育児負担が大きな世帯の負担軽減策、「ふく育サービス」を利用する事で実質の負担額は 1 時間 500 円から利用可能となる。

⑦全天候型の遊び場を全市町に整備
年間降雨量が多く、冬は雪が降る土地柄。
全市町に全天候型の整備する事を目標として、県は各市町に 1 億円の補助メニューを作成。

⑨ ふく育ブランドを県内外に発信
上記施策の浸透と PDCA サイクル構築のため、積極的に「ふく育県」の情報発信を行なっている。
「ふく育県」の認知度は県外で 10% 県内では 70%に
福井県について「子育て環境がよさそうな都道府県」との回答は 82%。

≪所　感≫
基礎自治体の枠内では制度設計が難しい②日本一の男性育休支援のような施策について、国に先んじて実施している。
他の項目についても、県が積極的に方針を打ち出すことで、基礎自治体も子育て支援施策を推進しやすい。
⑤の事業などは基礎自治体が個別に考えることかもしれないが、県内の基準施策として定着させたうえで地域特性を考慮して基礎自治体が工夫すれば良い。
子育て支援に関しては、定住化の促進に関連して、自治体間で競い合うような印象さえあるが、本来は大きな単位で考えないといけない。

令和７年１１月２１日

小野市議会議長　　平田　真実　様

民生地域常任委員会
藤原　章

行政視察報告書

先般実施しました、民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　視察実施日

令和７年１１月５日（水）～令和７年１１月７日（金）

２　視察メンバー

委員長・喜始　真吾　　副委員長・安達　哲郎
委員　掘井　ひさ代　　宮脇　健一　　村本　洋子　　河島　三奈
山本　悟朗　　藤原　章

３　視察先及び調査内容

（１）シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）
シェア金沢について

（２）有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
スマート農業について

（３）福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸３－１）

（３）福井県庁（福井県福井市大手３丁目１７－１）
ふく育県の子育て支援について

４　調査結果

【第１日】

≪視察先≫

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ 104 番地 1）

≪視察項目≫

シェア金沢について

≪視察内容≫

「シェア金沢」は１１，０００坪の広大な敷地に一般人が誰でも利用できる施設（食事場所、温泉、交流場所、ドッグラン）をはじめ、障害児関連施設（障害児入所施設、放課後デイサービス)、障害者関連施設（グループホーム、ワークセンター)、高齢者関連施設（サービス付き高齢者住宅、介護事業施設）学生向け賃貸住宅（月３０時間以上のボランティアが必須)、などが配置され、子どもたち、障害者、高齢者、若者、一般人が触れ合い、交流できる一つの町が構築されている。運営の主体は社会福祉法人「佛子園」で、「シェア金沢」以外でも多くのところで福祉関係を中心に事業を展開しています。ブータンにも事業所があってそばを栽培しており、関連施設で提供されているとのことです。スタッフは約１５０人ですが、全体では３５０人ぐらいの人が事業にかかわっているとのことでした。

≪所　感≫

高齢者や障がい者、子どもや学生など、様々な世代や立場の人々が「人を分け隔てしない街づくり」を目指し、「ごちゃまぜの街づくり」をコンセプトにして作られている「シェア金沢」は広大な街区が「人が直につながり、支えあい、共に暮らす街」の理念が体現できる場所になっていると感じました。

運営している社会福祉法人「佛子園」は白山市の行善寺というお寺が戦後、お寺で戦災孤児や居場所のない知的障がい児等を引き取り、育てていたのが始まりといわれていますが、障がいを持つ子どもたちの健全な成長を図る思いが強く感じられます。

人は他の人と関わらずには生きていけませんが、一般の障がい者施設では職員は関われても、一般の人は関わりにくいのが現実だと思います。しかし、ここでは障害を持つ子どもたちが学生さんや、お年寄り、一般の人たちとまじりあい、共に暮らす中で、社会に出ても暮らせる力を身に着けることができるようになっていきやすいと思われました。お話の中で「健康」の３要素は身体的、精神的に加えて社会的な健康が必要だと語られました。いろいろな人と関わることで社会的な健康が得られるということでしょう。「人が集まることの大切さ」を力説しておられましたが、なるほどと思いました。事業をするうえで大切なことは、地域の人たちと丁寧な関りを持ち続けていくことと言われていました。行政としてできることを尋ねると「あまり正しいことを言わない」とのことでした。

【第２日】
《視察先》
有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町１５）
≪視察項目≫
スマート農業について
ブロッコリーと米を中心にした大規模農業

≪視察内容≫
「有限会社安井ファーム」は平成１３年に個人経営から大規模化を目指して法人を設立。現在は１６２ｈａを経営しています。自己所有農地は２ｈａで、あとは田んぼを借りて経営されているとのことで、稲作後の田を短期間借りることもあるそうです。
従業員は常勤社員１０人で、パートや技能実習生を入れて３５人が働いています。作物は令和６年度実績でブロッコリー９４ｈａ、水稲４８ｈａ、大豆１５ｈａ、その他野菜１７種類５ｈａです。連作障害を避けるためブロックローテーションで圃場を変えています。主力のブロッコリーは石川県産の３割を占めるということで、３個に１個は安井ファームさんの育てたものになる勘定です。種まき時期や品種を変えながら春・秋・越冬の年３作を行い、年９か月はブロッコリーを出荷できる体制を整えています。また米つくりにも力を入れ、石川生まれのブランド米「ひゃくまん殻」や健康米のカルゲン米などを栽培しています。２年間で栽培時期の異なる麦、ブロッコリー、水稲を育てる２年３作体系を確立して、限られた農地でも収益性を高める工夫をしています。
　スマート農業についてはトラクター、定植機、ドローン、収穫機の活用などに挑戦しているが、トラクターは大きな圃場では効果が出る。自動定植機は苗の生育が均一なら効果が大きいが現実は難しい。ドローンによる生育状況の確認は抜群に効果がある。収穫機は試してみたが費用対効果の面からあまり魅力的には感じなかった。

≪所　感≫
　家族経営から始まり、耕作放棄地をなくしたいという思いで法人化して、“挑戦”の気持ちを忘れず、今では「北陸最大規模の複合経営ファーム」に成長していることに敬意を表さずにはおれません。農業はどうしても農繁期と農閑期があるので専業は難しいと思っていましたが、常に工夫してブロッコリーの１年３作や、麦、ブロッコリー、水稲の２年３作体系などを生み出していることに感心しました。また働いている人たちについても「自分がやりたいことができる環境を作る」ことで意欲を高めていることも大切だと思いました。そして規模を拡大し、貯蔵施設を完備して、相当の数を通年で出荷できる体制を作ることで市場に影響を与えられる存在になっていることが重要だと思いました。今後の農業のありかたの１つの典型だと思います。

≪現地視察先≫
福井県児童科学館（愛称：エンゼルランド福井）
　福井県坂井市春江町東太郎丸３－１

≪視察項目≫
「遊びと学びと交流で子どもたちに新たな驚きと発見と成長を」をスローガンに活動する「エンゼルランド福井」の活動と意義を学ぶ

≪視察内容≫
　「エンゼルランド福井」は福井県が設置主体で指定管理者を置く大型児童館で、設置目的は「遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに、科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図る」ことを目的として設置された児童福祉法に基づく児童厚生施設で、平成１１年６月１日に開館しました。
　名誉館長は宇宙飛行士の毛利衛さんで、父親が当地の出身であり、ゆかりが深く、当館内には宇宙・科学の展示ゾーンを設置していることから名誉館長に就任していただいているそうです。館内１階はセンターエリア、展示エリア、プレイエリアがあり、スペースシアター、サイエンス・ショー、ファンタジーエッグ、ナンバーフィッシュ、月面宇宙基地、ジオ・エンゼル、毛利衛研究室、プレイザウルスなどのコーナーがあります。２階はコミュニティールーム、コミュニケーション・ラボ、展示エリア、滑車の力、クラフトルーム、コンピュータルームなどがあります。館外はちびっこ広場、こどもの雲、子どもの村などの遊具があり、楽しく遊べるようになっています。
当日も子どもたちが来て遊んでいました。

≪所　感≫
　この施設は子どもたちが１回行ったら終わりというものでなく、いつでも、何歳でも遊びに行って学びと刺激を受けることができる施設だと感じました。また毛利衛さんが名誉館長ということもあり、宇宙の展示や講演会等が開催されており、子どもたちに宇宙への夢を育てる貴重な施設だと思いました。子どもたちが本で学ぶだけでなく体験し、実感することは大変重要だと考えています「滑車の力」は古くからの知恵で、大きな物を小さな力で動かせます。こんな体験ができる施設は貴重だと思います。

【第３日】
≪視察先≫
福井県庁
≪視察項目≫
ふく育県の子育て支援について

≪視察内容≫
　福井県は合計特殊出生率が全国２位ですが、それを支えているのは県の手厚い子育て支援施策です。「ゆりかごから巣立ちまで」をスローガンに、結婚祝い金、日本一の不妊治療支援、妊娠・出産時の経済支援、日本一の男性育休支援、第２子以降の保育料及び高校授業料を所得制限なしに無償化、中学生までの医療費無償化、子育て所帯の家事・育児・外出を支える「ふく育さん」「ふく育タクシー」、県内店舗で割引等を受けられる「ふく育パスポート」、雪や雨でも楽しめる全天候型の遊び場整備などを行ってきました。
　令和７年４月に副知事をトップとする部局連携のチームを設置し、新たな施策を検討しています。

≪所　感≫
　県としてよくぞここまでというのが率直な感想ですが、県として高い水準で実施されれば市町村ではそれに上積みしてさらに前進できます。現に子どもの医療費では県下で１６市町が高校３年生まで拡大しています。また子どもの遊び場整備事業では県が１億円を上限に補助するということで１７市町が実施中とのことですが、全市町に広がるものと思います。保育料の無償化は第２子以降を所得制限なしで無償化されていますが、これは子どもをたくさん作ってほしいという誘導政策があるのでしょう。保育料無償化は保育園に預けていない親から不公平感が出ることがありますが、「ふくい在宅育児応援手当」を作っていることはさすがだと思います。
　どこも少子化は大きな課題ですが、やはり経済的にも環境的にも安心して子育てできる環境を作ることが大切だと改めて感じました。